

## キャラクター・物語の魅力による地域活性化

## 活動の概要

ロボット漫画の金字塔「鉄人 28 号」、日本初の少女アニメとなった「魔法使いサリー」、忍者ブームを巻き起こした「伊賀の影丸」、全 60 巻にもわたる大河歴史ロマン「三国志」、「仮面の忍者赤影」、「ジャイアントロボ」、「バビル 2 世」、「コメットさん」など、数多くの名作を生み出された横山光輝先生の偉業をたたえ、先生の出身地である神戸にモニュメントや記念館を設立するという「KOBE 鉄人 PROJECT」。

広範囲から街への来訪者を呼び込むことによる活性化事業が街のにぎわいづくりのために必要となったことが活動のきっかけです。

メンバーは 10 人で構成し、事務局は 4 人で運営しています。

先生のファンはもちろん、神戸復興への思いを強くお持ちいただいている皆さんから広く寄付を募り、その募金と神戸市からの補助を基に

JR 新長田駅南地区に巨大な「鉄人 28 号のモニュメント」を創り上げることで、大きな話題と街の元気を発信します。

また、鉄人と三国志の街としての周知を高めるためのさまざまなイベント開催や「KOBE 鉄人三国志ギャラリー」を設置し、運営しています。



## 成果

モニュメント完成から 3 カ月で 100 万人以上の人に、広域から街を訪れていただきました。街や企業との連携での商品開発・販売等やイベントの開催をとおして、地域とのつながりがより緊密になってきました。

## 課題

こなさなければならない作業が煩雑化したため、手がまわらなくなってきました。シルバー雇用や緊急雇用等の活用で対応しています。

## 夢・抱負・今後の推進方向

「この街発」のオリジナルソフトをどんどん発信できるようになりたい。

鉄人 28 号モニュメントの建っている「鉄人広場」では、様々な団体と連携して多彩なイベント開催を行い、三国志に関しては、施設整備を活性化することにより「三国志の街・新長田」としての存在感をより高めていきたい。



団体名：NPO 法人 KOBE 鉄人 PROJECT

氏名：理事長 正岡健二（問合せ対応：岡田誠司）

事務所の所在地：神戸市長田区久保町 6 丁目 1-1 アスタくにつか 4 番館 4 F

電話：078-646-3028 FAX：078-642-3444

E-mail：info@kobe-tetsujin.com

ホームページ：www.kobe-tetsujin.com

## ノウハウ・コツ

### ⑧組織運営

#### スペシャリストによる少人数組織を核に

それぞれの分野におけるスペシャリストによる少人数組織を核とすることで、無駄な論議による時間のロスを解消してきました。

すべてのことを合議性で行うのではなく（当然、重要事項は理事会にて採決しますが）、日々のルーティーン業務については、それぞれのスタッフの決裁権を重要視することで、個性的な企画の遂行等が可能になったと考えています。

### ⑨活動の展開

#### 年間プランとマイナーチェンジ

大まかに年間を通してプランを策定したうえで、時々状況にあわせて、グランドデザインにこだわらず、マイナーチェンジをくりかえし、時期や内容等イベントの運営を行ってきました。そのことで、マスコミへの対応等臨機応変に行うことが可能となり、効率的な情報発信が行えたと考えています。



鉄人28号特別展の様子



第一回 三国志祭の様子

### ⑩その他

#### まじめに遊ぶ

“常に自分たちが楽しめなければ他人も楽しめない”を信条に、イベントやデザイン制作に取り組んできました。その上で、「ウケル」か「ウケナイカ」を考え、イベントに参加した方やデザインをみてくださった方に笑顔や気持ちよさを提供できるように努めてきました。そのために求められるのは、「モノ」としての純粋なクオリティです。まじめに遊ぶことが重要であると考えます。

## ひとことメッセージ

一人目の観客は自分自身です。まずは自らを納得させるプランニングを。

## みんなで作ろうひまわり畑

## 活動の概要

神戸市近郊の不動産業者が加盟する不動産近代化グループ（略F K G）が、設立 40 周年の記念事業として環境にやさしい社会貢献事業に「ひまわり畑」作りを考えました。コンサルタント役の(株)環境緑地設計研究所の紹介で NPO 法人ひまわりの夢企画と F K G と神戸市が合流し、検討を重ねた結果、神戸市が場所を提供、F K G が資金提供と企画、ひまわりの夢企画が技術指導、畑の維持管理、イベント等の実施と役割分担しました。

会場に飾るネットアートの制作は、神戸市立長峰中学校が協力してくれ、公募した市民ボランティアが種をまき、苗を植えました。

みんなの協働で、神戸空港駐車場西側の 6,600 m<sup>2</sup>の土地に 30,000 本のひまわりを植え、歓迎と感謝の気持ちを込めたひまわり畑を作りあげました。

## 成果

ひまわりは6月下旬に開花し、7月20日頃まで咲き続けました。多くのメディアで紹介されたので、たくさんの方が訪ねて来て都会の駅前にできたひまわり畑に感動していました。



## 課題

駐車禁止の道路に車を止めて見る人が多く、警察からクレームがきました。

前に有料駐車場があり、来場者のマナーの問題だと言いたいところですが、駐車禁止の看板を立てました。



## 夢・抱負・今後の推進方向

市から提供を受けた土地は、販売予定の土地ですが、売れるまではお花畑として使うことで了解を得ています。不動産近代化グループ主催の、ひまわり畑は'09年8月末で終了しましたが、その後はひまわりの夢企画が主催となり事業を継承しました。神戸市の参画と協働のプラットホームの助成金を受け、秋にはコスモス、春には菜の花、そして夏には再びひまわりと、許す限り市民に感謝と歓迎、そして出会いの場の提供をしたいと考えています。



団体名：特定非営利法人ひまわりの夢企画

氏名：(代表) 荒井 勳

事務所の所在地：神戸市垂水区南多聞台3-6-6-105

電話：078-787-7387 FAX：078-787-7387

E-mail：himawari8739@jewel.ocn.ne.jp

## ノウハウ・コツ

### ⑦行政の活用

#### 行政の求めているものを把握して提案する

行政との参画と協働は、とても難しいことが多いのですが、要は行政が求めていることを把握し、逆に提案という形で持ち込めば、困難なハードルも飛び越える手法を教えてください。

### ⑥ネットワークづくり

#### 事業への取り組み姿勢が常に問われている

NPOの活動には人間性が現れます。温かいNPOには温かい人が集まります。NPOの事業の取り組み姿勢が常に問われています。一般の人はそれを見て、いいことをしていたら応援してくれます。

また、活動と一緒にする時に、上から命令調で言ってもダメで、一緒にやろうという仲間感覚が大事です。人を集めようとするなら「よろしかったらお手伝いください」とより低姿勢で「この指止まれ」方式であれば、同じ方向を向いている人だけが集まり、事業が前に進みます。事業が終了すれば解散、を繰り返すことで次回活動する時にも参加する活動の賛同者ができてきます。

### ②活動資金

#### 背伸びした活動をしない

ほとんどの助成金は半額助成までです。活動を大きくすると自己資金が多く必要になります。背伸びしないことが大切です。

支援企業（スポンサー）が見つければ助かります。スポンサー探しは、自分たちがめざす方向と企業が求めている方向を一致させるのがコツです。



ひまわりの苗を植樹

### ⑥ネットワークづくり

#### 日頃から顔の見える関係をつくっておくこと

今回の「みんなで作ろうひまわり畑」は、社会貢献事業としてひまわり畑を作りたい不動産近代化グループと同じ思いを持つNPO法人ひまわりの夢企画が出会うことができ、協働が成立しました。行政・企業・NPOがうまく連携するためには、日頃の実績の積み重ねで、互いに顔の見える関係ができていることがポイントです。

### ⑧組織運営

#### NPOは得意な技術を持つこと

NPOは、すべてのことをできなくてもよいが、これなら負けないということを1つや2つは持っていることです。特技、専門的知識、ネットワーク、行政との関わり方でもいいので、何らかの得意な技術や蓄積されたノウハウを持っていないといけません。



### ひとことメッセージ

裏ワザなんて魔法の杖は存在しません。汗を流して地域を耕すことです。汗が見えると人は声を掛け、手伝ってくれます。

それと「継続は力なり」です。

## 安全・安心と住民交流をめざすまちづくり

## 活動の概要

当地域は高齢者が多く、65歳以上の世帯主が65%にもなり、児童も少数です。地域には自治会組織の代わりに高尾台管理組合がありますが、役員は1年の輪番制のため、地域の課題や活動をするうえでのしくみがわかった頃には任期が切れ、十分な地域活動ができません。そこで、児童の登下校の見守り、独居老人への訪問等の活動を活発にするために、3人の有志が資金を拠出して、地域をもっとよくしたいと考える人に声をかけ、まちづくり協議会を発足させました。現在のメンバーは約20人です。

主な活動としては、天井川にホテルを呼び戻す研究・イベント、高尾台地区へのバスの延伸やコミュニティタクシーの検討などの研究会の開催、住民の健康と交流を図る「太極拳講習会」や「朝のラジオ体操」を実施しています。

また、「天井川を美しくする会」や「NPO法人須磨歴史倶楽部」と連携して活動を展開しています。



バス問題フォーラム



太極拳講習会

## 成果

役員とメンバーは毎月第4火曜日に定例会を開催しています。出席者は30~40名と徐々に増えています。

ロコミ、広報の発刊、掲示板でのチラシ等を通じて徐々に理解者が増え、ホテルセミナー、バス問題フォーラム、太極拳講習会など地域全体での課題解決に向けた取り組みや交流などができるようになりました。

## 課題

地域には多くの定年退職した人たちがおられます。その人たちに活動に参加してもらうため、一人ひとりに呼びかけを行っています。

## 夢・抱負・今後の推進方向

若い人の流入を促し、神戸の軽井沢、日本のビバリーヒルズといわれるような快適な町をめざしています。手始めに天井川にホテルを呼び戻し、神戸の新名所にしたい。多数のホテルが育てば、隣接する離宮公園にも飛んでいくはず。この活動は始まったばかりですが、素敵なホテルの町になることを夢見て活動しています。

団体名：高尾台・水野町地区まちづくり協議会

氏名：川島 清一

事務所の所在地：神戸市須磨区高尾台2丁目4-3

電話：078-731-2337 (080-3810-0186) FAX：078-731-2337

E-mail：kk1930@k.vodafone.ne.jp

## ノウハウ・コツ

### ①人材養成

#### 事業ごとに得意とする担当者を配置

登下校見守り活動、空き家対策、耐震診断など、当会が行う事業ごとに担当者を決め、その分野に習熟してもらうようにしています。それぞれ得意な分野があるので、なるべく得意な人が得意な分野につくように心がけています。

例えば、広報・資料の作成はパソコンの得意な人に依頼し、太極拳はメンバーの中から指導者を出すようにしています。

### ⑥ネットワークづくり

#### 目的が一致する団体等との交流を積極的に

他の団体と積極的に交流し、そのノウハウを学びながら種々のイベントを行っています。

例えば、「蛍の呼び戻しセミナー」では、子どもたちに自分たちが住んでいる地域の魅力を知ってもらうため、地域の歴史や環境をテーマに活動をしている「NPO法人須磨歴史倶楽部」や「天井川を美しくする会」などと共催することで非常に濃い内容の活動となりました。このように目的が一致する団体との交流はとても大切です。

また、地域課題の解決のため、大学の教授等に指導いただいています。例えば、地域のバスの確保を図るため、神戸市から紹介を受け、大学教授に住民へのアンケートなどの実態調査の実施や、コミュニティバスなど対応策の提案をいただきました。関係する組織とのネットワークづくりが重要です。



ホタルセミナー

### ⑤広報・情報共有

#### 広報は大きな文字で簡潔に

団地内の情報、出来事を掲載していますが、あまり細かく書くと読んでもらえないので、大筋だけを大きな活字にして簡単に掲載しています。そうすると、目に付きやすく、見てくれる人が増えます。

## ひとことメッセージ

「NPO法人須磨歴史倶楽部」は、毎月第3土曜日午後2時より須磨区民ホールで須磨学の講演を行っています。須磨の歴史資産を発掘・再評価して後世に引き継ぐとともに、広く須磨の歴史を発信し、住民が須磨という地域を誇りに思えるような街づくりに貢献しようとしている団体です。観光ボランティアなども行っているので、連携する団体としてお奨めです。

## 地域の歴史再発見を通じてまちづくりを！

## 活動の概要

平成 17 年のNHK大河ドラマ「義経」をきっかけに、須磨とその周辺地域の歴史に興味を持つ者が集まり、平成 15 年に任意団体として発足しました。源平合戦を主とした情報発信を行い、観光ガイドを通じて須磨のまちおこしに取り組んできました。その成果をふまえながら、行政等関係機関と連携・協働しながら、更に活動を継続・発展させるために、NPO法人に衣替えし、失われつつある歴史資産を発掘・再評価して、後世に引き継ぐと同時に、その成果を発信して、須磨の“まちづくり”に貢献しようとするものです。

主な活動としては、JR須磨駅での観光道案内・須磨寺観光案内・区内史跡の同行観光案内や、年間4回程度の歴史ウォークを実施しています。

平成 18 年からは、毎月第 3 土曜日にメンバーが講師となって歴史講座「須磨学」を開催しています。多数の区民の参加があり、出前講座の要請も寄せられるようになりました。

また、長く絶版となっていた「須磨百首かるた」を復刻・複製し、これを用いて毎年地元商店街が地域活性化を目的に開催する「須磨かるた会」の企画・運営を担っています。



須磨かるた会

## 成果

これらの活動は益々盛況になりつつあり、平成 21 年秋にはNHK総合テレビ番組でも紹介されました。

観光案内は多数の利用があり、須磨の知名度向上に、歴史ウォークは、滋賀・奈良・和歌山方面を含め毎回 200 人程度の参加者があり、須磨への集客に貢献しています。「須磨学」には多数の区民の参加があり、出前講座の要請がくるようになりました。「須磨百首かるた」の普及に努めた結果、須磨の地域文化として定着しつつあります。

## 課題

協力または共催での事業要請が増えてきていますが、実働メンバーが不足気味です。資金不足で活動拠点となる固定的な事務所を持たないのが悩みの種。外部との連絡、メンバー間のコミュニケーション面で不便があります。

## 夢・抱負・今後の推進方向

須磨は歴史の古い町でもあるので、歴史資料の発掘に努め全国に発信してより多くの来訪者を集め、須磨の活性化に尽力したい。

活動内容が徐々に多岐にわたるようになってきているので、この辺で活動内容を見直し、方向付けの再考が必要。



史跡ガイド風景

団体名：特定非営利活動法人 須磨歴史倶楽部

氏名：(理事長) 西海 淳二 (副理事長) 御園 一夫

事務所の所在地：神戸市須磨区高尾台 2 丁目 4 番 3 号

電話：090-8539-8703 FAX：078-731-2337

E-mail：spue98z9@royal.ocn.ne.jp

ホームページ：http://www.suma-kankokyokai.gr.jp/

## ノウハウ・コツ

### ⑨活動の展開

#### 地元密着型の歴史・企画

地元の長老に話を聞く、残っている古文書を調べるなど、地元の歴史資料を掘り起こすことを一番大切にしています。この地域で昔何があったのかを主眼にしているので、地元の人により親しみを持ってもらえます。

### ①人材養成

#### 歴史の勉強を多面的に活用

メンバーの中には、ガイドが苦手だけれど、須磨の歴史を勉強したいという人はたくさんいます。第3水曜日の夜に開催する定例会では、研修会としてこれら歴史の好きな人に勉強したことを発表してもらう時間をとっています。

毎月第3土曜日に開催する歴史講座「須磨学」には、住民など希望者はだれでも参加できます。講師は先述の歴史の好きなメンバーです。ガイドをするメンバーもこの講義を聴講し、各自の案内に活かしています。



歴史講座「須磨学」風景

### ⑨活動の展開

#### 行政や企業の広報力や信頼力にのっかる

県外からの参加も結構あり、各事業の参加者は多いです。

歴史ウォークは、須磨区役所や須磨観光協会から後援をもらっています。チラシをたくさん作成し、須磨区役所や区民センターに置いてもらっています。ホームページは須磨観光協会のサーバーを活用してもらっています。JR西日本が発行する「ふれあいハイキング」に歴史ウォークを紹介してもらっています。



JR 須磨駅での観光道案内の様子



地域のイベントへの参加

## ひとことメッセージ

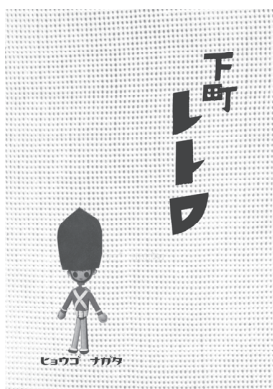
元気のある団塊世代の入会をお待ちしています。

## 下町を老若男女のパラダイスにしよう

## 活動の概要

震災後神戸でも数少なくなった下町情緒が残る兵庫区・長田区をこよなく愛する 20 代から 80 代までの女子有志が自然と集まり、2005 年 5 月「下町レトロに首っ丈の会」が結成されました。西洋のおしゃれ文化が注目される神戸ですが、下町の風情あふれる大衆文化もしっかり根付いており、震災を乗り越え今日まで育まれて来ています。

下町地域の多彩な住民の発掘、下町文化の魅力を広く地域内外に発信する「下町レトロ地図」の販売、毎月第 4 日曜日に開催する「下町遠足ツアー」の企画・実施、また神戸在住や観光で訪れる外国人を対象に「英語版下町レトロ地図」を出版し、「外国人向け下町遠足ツアー」も開催しています。下町を、世代や国境を越えた老若男女のパラダイスにするため、地元住民、行政機関・企業・学術機関などのご協力のもと活動を展開しています。



下町レトロ地図



ツアーの様子

## 成果

兵庫区・長田区南部地域という下町エリアは、何もない古いまちと思われていましたが、いろいろな面白い人を発掘でき、ツアーで紹介したり、お店の売り上げに少しずつ貢献する中で、地域の人に喜んで頂いています。ツアーの来訪者もガイドブックに載っていない地域の面白さを体験できるので、1/3 以上がリピーターになって来ています。大阪（西成）を始め、他地域の下町エリアなど活動範囲が広がってきました。

## 課題

ツアー案内なしでも、下町地域に気軽に来ていただけるようになること。  
神戸を訪れる外国人にも、下町の日常生活を体験できる町として知ってもらおうこと。

## 夢・抱負・今後の推進方向

高齢化社会がどんどん進んでいく今、お年寄りが元気なこの下町で「老若男女がごちゃごちゃと交じり合うことでどれだけ面白く楽しい生活が送れるか」ということをこれからも追いかけていきたいと思えます。“下町老若男女☆パラダイス化計画”をこれからの高齢化社会に対応するモデルケースのひとつとして発信していけるようがんばっていきます！

団体名：下町レトロに首っ丈の会

氏名：伊藤由紀、山下香

事務所の所在地：〒652-0864 神戸市兵庫区笠松通 7-3-6「淡路屋」内

電話：078-671-1939 FAX：078-671-1939 または 078-381-5940

E-mail：citamatiretro@yahoo.co.jp

ホームページ：http://situationniste.com/citamatiretro.html

## ノウハウ・コツ

### ⑨活動の展開

#### なんでもおもしろいと思う気持ちが大事

やっている本人がやらされているではなく、楽しんでやっている雰囲気は、参加者の方々には伝わるので、まず本人が楽しんでやれることを企画して、お客さんに喜んでもらうという気持ちが大切だと思います。それさえあれば、何をしてもいいと思います。

やるからには、人と同じことをやっていると比べられるだけで一番にはなれません。誰でも、はじめてのことをやってしまえば家元です。

家元なら何をしてもいいので、思い切った発想をしてもいいんじゃないでしょうか。

### ⑨活動の展開

#### 「なしなし」にはヒントが

自分のまわりをみて、「これはできない」「ないない」「なしなし」「無理」ということに、本当にダメなのか。見なおしてみれば、何かヒントが隠れているかもしれません。常識にとらわれず、さがしてみれば個性として売りになり、ここに「笑い」があれば楽しくなります。

### ⑨活動の展開

#### 結局コツコツが一番近道

急に流行となれば、飽きられるのが早いので、ゆっくりいきましょう。長く続けば、新しい発見もあり、進化していくことでしょう。メディアに取り上げていただいても、にぎやかなのは1週間だけで、それ以降キャンセルが多くあてにならないものです。「地道にコツコツ」が一番強くなる近道です。



神戸ドックの見学



串かつ屋さんでの試食

## ひとつことメッセージ

個性を出していきましょう！

## HAT 神戸を芸術の街として盛り上げよう

## 活動の概要

震災後にゼロから生まれた街である「HAT 神戸」は、地域のコミュニティやアイデンティティが未成熟であることから、地域住民の交流と地域振興の必要性が謳われて来ました。

このHAT神戸を拠点とする株式会社 JOTC では、地域の自治体関係者などからの依頼を受け、地域の皆さんの声を聞くため「生活者の視点による地域活力・活性化」に関するアンケートを実施。この結果を踏まえて、地域情報誌「JOTC PRESS」を発行するとともに、子供向けのイベント主催などの活動を行って来ました。

こうしたなか、平成 21 年 10 月 17 日、兵庫県立美術館を要する立地を生かした「アートの街」として HAT 神戸を発信すると同時に、地域の住民にも気軽に「アート」を取り入れて貰うための試みとして、「アートマーケット」を中心としたイベント「HAT 美市」を開催しました。

(HAT 美市で協働した団体)

- ・HAT 神戸中心街区協議会(HAT 神戸地域活性化のための企業・団体による協議会)・・・行政との交渉、当日の準備の手伝いなど
- ・兵庫県立美術館・・・「HAT 美市」の名称の使用許可と広報の協力
- ・社会福祉法人種の会(なぎさ児童館の管理・運営)・・・ステージイベントにて学童保育児童らによるステージ出演の協力
- ・難防犯協会なぎさ支部・・・「なぎさ民踊の会」によるステージ出演
- ・HAT なぎさの湯・ブルメール HAT 神戸(大型商業施設)・・・駐車場の提供など

## 成果

地域住民等が公共施設(なぎさ公園)の活用の前例となったこと、また地域で活動する団体・企業との連携が生まれました。

フリーマーケット・模擬店への出店などに地域住民の方が数多く参加していただき、参加意欲のある住民、今後一緒に活動していただける住民の掘り起こしができました。

## 課題

今後、この取組を継続していくためには、模擬店やフリーマーケットへの出展者・出店者を増やしていくための募集の方法、また、そのテントや催会場等の配置・動線の再考し、来場者の流れを良くするために公園内のスペースの使い方に工夫が必要と考えている。

さらに、当日はイベント途中から降雨となりましたが、天候の変化への対応が不十分だったことが、今後の課題としてあげられます。

## 夢・抱負・今後の推進方向

1 企業のCSR活動としては限界があるため、新たに実行委員会形式の事業主体を立ち上げ、より継続的で広範囲な活動が可能な体制を整える方向で動いています。

実行委員会形式にすることにより、個人や他の企業・団体にもより主体的な形で事業に加わって頂くことが可能になります。

団体名：株式会社 JOTC

氏名：虫明麻理子(広報)

事務所の所在地：〒657-0856 神戸市灘区岩屋南町4-36

電話：078-871-1212 FAX：078-871-1215

E-mail：mushiake@jotc.jp ホームページ：http://www.jotc.jp

## ノウハウ・コツ

### 地域づくりに“王道”なし

特別なノウハウのようなものはありません。  
具体的なイベント運営などは、業者に丸投げしてしまうと自分たちの手元にノウハウや情報が残らないため、手探り状態で準備を進めて行きました。

やってみて分かったことは、簡単にできる近道というものではなく、地道にひとつずつ課題をクリアして行くしか方法はないという事でした。

### 緊密な報・連・相（ハウレンソウ）

比較的小さい組織で動いているからできたことから分かりませんが、「HAT 美市」準備中はスタッフに間で緊密に連絡を取り合い、情報を共有することで、足並みが乱れないように進めることが、大切だと思います。

一人の力では限界があります。組織で対応するためには、みんなの力を合わせる必要があります。それには、報・連・相（ハウレンソウ）がキーワードとなります。



## ひとつメッセージ

今後のより幅広い活動のため、「兵庫スマイルプロジェクト実行委員会」の立ち上げを企画しています。

この実行委員会には、地域の活性化に興味を持つ方なら、個人・団体を問わず参加して頂けます。

今後、会員以外の方にも自由に参加していただける『勉強会』も企画していますので、興味のある方はお気軽にお問い合わせ下さい。

<http://smile-hsp.cocolog-nifty.com/net/>

## 人形芝居でふっくらとしたまちづくり

## 活動の概要

西宮中央商店街の活性化、世代間・新旧住民間のコミュニケーションの促進、地域伝統芸能の再現・継承を目的に、戎座人形芝居館を運営しています。戎座人形芝居館は、西宮神社の門前町にあり、人形浄瑠璃の源流である傀儡師が居住した地域であるという史実に基づき、「人形芝居のふるさと」を掲げた企画を提案し、地域の人形劇団による毎月の上演や、紙芝居、マジックを定期的上演しています。

商店街の店主が結成した「人形芝居えびす座」は、傀儡師による戎舞を復活させることを使命とし、人形劇の上演時には老若男女が楽しめる創作えびす舞を必ず上演し、まちの文化歴史を伝える役割を果たしています。平日には、大蔵流善竹忠重氏による狂言会や人形劇サークル「かぶとむし」による人形劇や戎座紙芝居組の練習を公開しています。また、招福寄席として若手落語家を地域で育て応援する高座を第4金曜に開催しています。

運営にあたっては、商店街振興組合の理事、西宮市浜脇地区の連合自治会、子ども会、地域浜脇小学校、浜脇中学校、夙川短期大学、阪神人形連絡協議会、西宮神社の代表を委員とする運営委員会を設置しています。



スロークン留学生との交流

## 成果

全国でも稀少な人形芝居（劇）の小屋として注目され、さまざまな大学や関係者からの視察や留学生・海外からの研修生も増えています。地域の隠れた芸能者の知識が集結しつつあり、新たな創作の場に変遷していく気配があります。

## 課題

運営はすべてボランティアだが、道具や交通費などの必要経費、継続的な固定費用の捻出が一番の課題である。会員制を導入するなど組織基盤の確立が必要である。

企画は、常に新しいことを盛り込みながら地域の関心を集める努力が必要。

## 夢・抱負・今後の推進方向

戎参道（西宮中央商店街）が人形芝居や大道芸のまちとして、いつでも安心して遊べ、お年寄りも子どもたちも触れ会える場（潤いのあるふっくらとしたまち）となること。

地域の民話の人形劇化・紙芝居化、英語による人形芝居の上演、地域に伝わる伝統芸能の発掘と伝承、戎座ジュニアの育成、傀儡師のコンテストやワークショップの開催、地域間交流などに取り組みたい。



「創作えびす舞」の上演

団体名：戎座人形芝居館

氏名：館長 頼田稔（事務局：副館長 武地秀実）

所在地：西宮市馬場町6-26

電話：0798-55-8099 FAX：0798-55-8099

E-mail：info@ebisuza.com ホームページ：http://ebisuza.com

## ノウハウ・コツ

### ③活動場所

#### 多様な世代の交流の場となるよう運営

マジックやこま回し、紙芝居などは、大人と子どもが組になって見に来ることを原則としているので、母子だけでなく、父さんと子ども、祖父母と孫、近所の人が子どもをまとめて連れて来るなど多様な場合があり、世代間の交流の機会となっています。また上演は無料で、かつ曜日と時間を決めているので、地域の人が気軽に参加しやすいようです。いつも人形芝居館の玄関を開け放して、気軽に常駐するスタッフと親しみ、学校帰りに立ち寄る子どもたちも増えました。

### ⑤広報・情報共有

#### 情報発信による地域に潜在する芸能者の発掘

活動の予告はチラシを毎月作成し、周辺のマンションにポスティングしているほか、HPでの公開、また新聞やテレビなどには積極的にPRし、取り上げてもらいます。そうすることで、参加している人のやりがいも生まれます。

また、当芝居館の活動を知り、自分の提供できる芸や技術、資料を持ってきて参画してくれる人も増え、それらを生かして当館の活動に協力をいただくこともあります。



「逆顔大王」の練習風景

### ⑨活動の展開

#### 上演時は、教育の場でもある

いつ来て、いつ帰ってもよいことになっていますが、上演は座って観ること、始まったら拍手をすることなど、ルールとして押しつけないけれども、みんなが楽しむためには自分勝手なことをしてはいけないことを自然と学ぶようにしています。

上演が終わると人形に触って演じてみるという体験を自主的に楽しんでいます。

### ⑥ネットワークづくり

#### 広がりのある企画と切り口からネットワークを広げる

企画するにあたって、分野、年齢、経験に広がりがあることが重要なので、企画者は一人ではなく、ネットワークを活用して広がりをもたせます。思い立ったら、すぐに動くこともポイントです。来た人がここで学んだことを地域に持って帰る、人と人のつながりの拠点と考えています。だからこそ情報も集まってきます。

また、他の団体や行政からの依頼には積極的に協力してコミュニケーションを図ります。地域教育、環境学習活動や商店街の活性化、伝統芸能の伝承など、様々な切り口を見つけ、互いに刺激となる企画を提案したり、柔軟に受け入れて対応します。

### ひとことメッセージ

まずは一番にご自分が楽しんでください。そして楽しくできそうな人を誘ってみてください。垣根を越えて、いろんな人に声をかけること。そんな勇気が必要です。

## 地・産・学の協働によるコミュニティづくり

## 活動の概要

西宮市鳴尾地区は、少子高齢化が進む一方、大型マンションや大型商業施設の建設に伴い住民の転入が増え、コミュニティとしてのまとまりが難しくなっています。この改善のため、環境緑化活動と学童支援事業を基本に、団塊世代の潜在能力の顕在化と地域・大学・企業の協働を図ることでコミュニティの活性化に取り組んでいます。

現在のメンバーは、鳴尾小学校PTAなど地域住民・武庫川女子大学・ららぽーと・キッズニアの各ボランティア40名で構成されています。

これらの団体、大学、企業等と協働して、県道甲子園筋の芝生花壇の造成と維持管理、県道臨港線沿いに立体花壇(3基)の造作と維持管理をしています。立体花壇は、当グループが開発した乾燥芝を土壌代わりに草花を育成する技術を活用し、壁面緑化するものです。21年度は鳴尾小学校に立体花壇1基を新設し、併せて小松育成センター等の学童に親子協力のガーデニング教室を開催しました。活動区域は県道甲子園筋から県道臨港線沿い、さらに鳴尾小学校、小松地域、今津地域まで広がっています。

## 成果

活動区域は、県道甲子園筋から県道臨港線沿い、さらに鳴尾小学校、小松地域までと広がっており、地域の環境への意識が向上し、花のある、潤いのある街づくりの土台が醸成されつつあります。

県のボランティアプラザ等のホームページで活動内容を紹介することで他地域からの支援要請もあり、それに応える努力を積み重ねています。



## 課題

①地域のボランティアの若返りを推進する ②協働先の企業等の担当者交代時の円滑な事業継続対策 ③活動が広がるにつれ資金確保が難しい、等の課題を抱えています。

その対策としては、NPO法人の認証を受けることが最適と考えますが、日々の活動に追われ、手つかずの状態です。

## 夢・抱負・今後の推進方向

団塊世代の持つ技術・技能が生かしながら、花があり、潤いのあるまちづくりをめざしたい。また、活動地域を地区・校区からストリート(尼崎から芦屋川までの臨港線沿いすべて)へ発展させたい。

今後、①活動をしやすくするために組織の再構築を検討する ②協働相手先と持続性のある協力体制を確立する ③資金計画の円滑化を計るため、他組織との助成制度に関する情報と協力体制を確立する ④大学内のボランティア組織の構築を促す ⑤行政の支援も得ながら広域の連携を促進する、などに取り組みます。

団体名：甲子園八番町自治会甲子園筋緑化ボランティアグループ

氏名：中尾吉治(永井孝也)

事務所の所在地：西宮市甲子園八番町三番16号

電話：0798-47-5354

FAX：0798-47-5354

E-mail：hdg27302@hcc1.bai.ne.jp

ホームページ：http://blogs.yahoo.co.jp/kankyoboranthia

## ノウハウ・コツ

### ⑧組織運営

#### 企画立案部門と実働部門の重層組織で活動

企画立案部門と実働部門にグループ分けして、タスクフォース的に活動するようにしています。

企画率部門は、どの事業に重点を置き、そこにだれを投入するかを考えています。事業にかかる予算に見合う助成金をさがし、必要な資金手当てを行います。事業規模によって複数の助成金が必要な場合は敏速に対応しています。また、常に事業の進捗状況と経費の把握に努め、迅速に人や資金面の修正対応をしています。

実働部門は、常に活動の質・スピード、経費を意識するように心がけています。

### ⑥ネットワークづくり

#### 地域の人々の持つ知識・知恵、コネクションを活用

備品や消耗品（花壇に使うタイルなど特殊な物品を含む）をどこで扱っているのか、何らかの課題が生じた時にどうすればよいのか等の知識・知恵、技術を持っている人が地域の中に必ずいるので、そこから情報を得るようにしています。また、企業等で働いていた時のコネクションやルートを持っている人があるので、それを活用させてもらうようにしています。

大阪コミュニティ財団の助成金情報についても、同財団のスポンサーになっている企業に勤める人から紹介してもらいました。

### ②活動資金

#### 助成額の縮減に合わせて事業規模を縮小しない

助成金の額に合わせて、当初の事業計画を変えないようにしています。予算上で足りない部分は何らかの形で調達してでも、当初の計画どおり事業実施します。助成額に応じた事業の縮小は、当初予定した効果が事業縮小分以上に大幅に減少してしまいます。

事業進捗過程で、助成対象項目以外の経費が発生する場合がありますので、それに備えた経費枠を当初から見込んでおくことも必要です。



## ひとことメッセージ

ボランティアプラザに常に助成に関して助言を求めています。

また、「大阪コミュニティ財団」から助成をいただいています。同財団は、事業の内容によりますが、幅広い分野に助成枠があります。

## みんなでつくろう音楽のやさしい町

## 活動の概要

芦屋市在住の音楽関係者や愛好家らが集まって「だれもが楽しく暮らせるやさしい町」をつくろうとボランティア活動やネットワークづくりに取り組んでいます。

主な活動として、①芦屋市立美術博物館の講義室で高齢者を主な対象者として毎月開催する「みんなで歌いましょう」 ②メンバーの自宅「スペース‘en’」で毎月開催する高齢者（特に身体の不自由な方）が気楽に参加できる、リコーダーアンサンブル、ピアノ、琴などを演奏する1時間程度の「小さなコンサート」 ③身体障害者の施設「みどり生活支援センター」で毎月開催する手話を付けて歌ったり、独自のよさこいソーランを踊ったり、朗読、クッキー作り、みんなでカラオケと楽しいひと時を過ごす「ふれあいタイム」 ④本物を0歳から鑑賞でき、母親にもゆったりできるひとときを提供するプロの演奏家が開催するコンサート「いつでもどこでもクラシック」などを展開しています。

## 成果

18名から始まった「みんなで歌いましょう」の会は、参加者が増え続け、現在50名を超えています。最高齢の参加者は90歳です。約10年続いている「小さなコンサート」は、身体が不自由で外出の難しい方たちのご家族に送ってもらって、毎回20名近く参加されています。



## 課題

メンバーに若い人も増えつつあるが、まだ全体の2割程度なので、若い人材の育成が必要です。

## 夢・抱負・今後の推進方向

いろいろな活動をしています。活動の幅が広がっていくと思うので、高齢者、障害者、子育て支援グループと協働した活動にしていきたい。



団体名：I LOVE ASHIYA

氏名：加藤純子

事務所の所在地：芦屋市公光町9-4 アルコーヴ104号

電話：0797-31-7405 FAX：0797-31-7405

E-mail：pavane@kfa.biglobe.ne.jp

## ノウハウ・コツ

### ②活動資金

#### 支払いにはメリハリをつける

1回の企画で大判振る舞いをしては後が続きません。しかし、プロの音楽家に正規に演奏をお願いした時には、きちんと相場の謝金を支払います。他の機会に演奏をお願いしたい時には、事業の趣旨を説明し、賛同していただけるなら出演してもらえないかと声をかけ、低額な謝金で協力いただいています。相手を利用することをしてはいけないと考えています。

### ⑥ネットワークづくり

#### 他の団体と積極的に協働する

協働できるグループには積極的に情報提供をして活動を広げていくことを心がけています。

各団体とやっている活動を説明し合う中で、一緒にやってみようとなるのが多々あります。例えば、0歳からのコンサートでは、子どもに舐もできる機会なので、子育て支援グループと協働し、子育て講座を含めたコンサートとしました。また、社会福祉協議会との協働では、情報交換にとどまらず、音楽関係の専門家が多いことを生かして、当会が高齢者向けのヨサコイの振り付けに協力するなどしています。また、各種の協議会に出かけて行った時に、当グループの行事への参加を呼びかけたり、逆に、他のグループの活動を当会の予定表で紹介したりしています。

### ⑧組織運営

#### 無理をせずに活動できる体制で

高齢の親を抱える人が多いため、行事等は活動できる人の範囲で成り立つように心がけ、メンバーが無理をしない状態を保つようにしています。何かあった時にはだれでも代理が務まるなど問題なく活動ができる体制づくりができつつあります。

毎月の活動行事は、カレンダー形式でその月の初めまでにメンバーに配布しています。本人の意志に任せ、行事への参加の出欠は求めません。

また、参加できなかった人には事業後にこんな感じだったと伝え、本人が気後れしないように配慮しています。

### ⑨活動の展開

#### だれでも受け入れる配慮で行事参加者は定員一杯

コンサート等への来場率の高さは、緩やかなルールによるところが大きいです。コンサートは、入場を無料にしていること、かしこまらずに普段着で行けること、子どもとお母さんが一緒に参加でき、子どもが他の聴衆者にかかる迷惑を気にせずに親子で楽しめること、などが参加しやすさになっているようです。

また、障がいのある人も参加していますが、みんなで拍手をして迎えるなど歓迎の意を表す、車いすの利用者が来場する場合は、そのスペースを空けておきたいことを事前に他の参加者に伝え了解を得るなど、だれでも受け入れる体制や配慮を心がけています。

また、主催者側の気持ちの持ち方として、参加者に教えるのではなく一緒に音楽を楽しむ、あるいは、教える機会を与えてもらっていると、おごりのない気持ちでないと活動は続きません。

活動の中にこだわりをつくることも重要です。CDでは音の響きが伝わらないことから、当会の活動では生演奏にこだわっています。

## ひとことメッセージ

多くのグループと情報交換をすることが、活動の幅を広げます。また、できる範囲の協力をすることも大切です。

## 地域に愛着を感じるまちづくり

## 活動の概要

「ふるさとの輪」は、平成 11 年に尼崎市の地域の課題を解決し、地域の魅力を向上させることを目的とするパワーアップ事業の参加者のうち、武庫地域の有志 9 人で立ち上げたグループです。

地域に存在する歴史的・文化的な地域資源を紹介し、散策して地域住民をはじめ広く市民の方々に地域に愛着を感じてもらふこと、また、次代を担う子どもたちにも歴史ポイント絵画や地域の歴史や名所にまつわるかるた・歴史ウォーキングを通じて地域に興味をもってもらふことをめざしています。

また、(平成 20 年度には、) 茨木童子という武庫地区の伝説をもとにした紙芝居をつくり、子どもたちに伝えていく活動にも取り組んでいます。絵は全てボランティアさんの手によるものです。

活動 7 年目に新たな活動として、現実の道路事情を調べ、地域が安全・安心に歩けるかチェックし、各小学校区別にバリアフリーマップを作成して各小学校(6 校)をはじめ公共施設等に配布したところ、大変喜ばれました。

武庫地域の歴史を調査・探訪・冊子の発行を行う「ふるさとを知る会」、住民参加の公園づくりに取り組む「G・はなみずき」、尼崎市地域振興センター、武庫地区コミュニティルーム、地域の小学校などと連携して活動を進めています。



歴史カルタ



地元で伝わる伝説をもとにした紙芝居



武庫地区歴史探保奥羽訪

## 成果

子どもたちを含め住民の地域の歴史への興味や地域への関心が深まりました。

## 課題

メンバーの高齢化と活動資金の不足が課題です。

## 夢・抱負・今後の推進方向

歴史的・文化的な地域資源が豊かな武庫地区を、住民が愛着を感じ、誇りに思う地域に、また、全国・世界から訪問者がある地域にしたい。

過去の歴史・文化的な地域資源に限定せず、「新しきものの中にも古き良きものがある」という姿勢で新しい地域の魅力を発見していきたい。

団体名：ふるさとの輪

氏名：小島 修

事務所の所在地：尼崎市武庫の里 1-17-25

電話：06-6431-5160 FAX：06-6431-5160

## ノウハウ・コツ

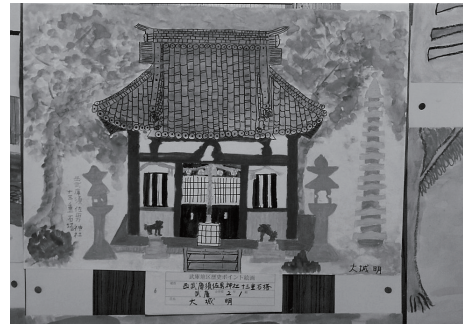
### ⑦行政の活用

#### 行政への頼み事は迅速、正確に

会の主たる活動である「歴史ポイント絵画展」への出展を各小学校に依頼する場合、どうしても行政の協力が必要となります。尼崎市武庫地域の地域振興センターに相談し、市から各小学校へ出展依頼をしてもらっています。そうすることで事務的なことが比較的スムーズにいきます。



武庫地区歴史ポイント絵画展



武庫地区歴史ポイント絵画展

### ⑨活動の展開

#### 新しい風の吹き込みを！

会の活動は安全面から考えると毎年同じことの繰り返しが楽ですが、マンネリ化による活動の沈滞は必ず起こります。それを防ぎ、更なる発展をめざすには、新しい風が必要です。

ひとつは、メンバーの存在です。

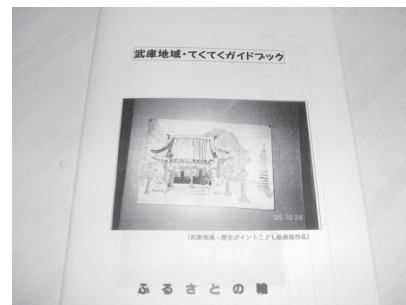
新しい風を吹き込むことのできるメンバーが一人でも会にいて活動を持続させることができます。当会でもメンバーを確保するため、あらゆる機会を通じて会のPRを行うとともに、個人的に勧誘しています。

新しい風と調和よく融合するためにも、メンバーたちは市政出前講座、施設見学等への参加を通じまちづくりについて積極的に学んでいます。

もうひとつは、新しい企画への取り組みです。当会では、「バリアフリーマップ」や「ふるさと探訪ガイドブック」の作成であり、今年度に歴史ウォーキングの冊子として発行した「武庫地域てくてくガイドブック」です。



月1回の定例会に参加



武庫地域てくてくガイドブック

### ひとことメッセージ

当会のメンバーは平素からさまざまな活動に参加し、多様な情報を入手しています。また、メンバーそれぞれの活動を通じて人のネットワークを構築しています。このことが、会の活動に幅をもたせる一因になっています。

## みんなで作る、みんなの居場所

## 活動の概要

震災後、地域コミュニティが大きく変化する中で、地域のつながりを深め、地域ぐるみで子どもたちを見守り育てる取り組みと、その核になる、地域の拠点の必要性を感じ、運動をしていたところ、県民交流広場事業の募集が始まり応募しました。

活動範囲は、中学校でいっしょに勉強することになる瓦木小学校・深津小学校の2小学校区で、この2小学校区の青少年愛護協議会を母体に、老人会、PTA他地域団体の代表を中心にメンバーを構成し、ボランティアのみなさんの協力で、毎日広場を開館することができます。また、組織はもともとあらゆる団体を網羅しており、2階を事務所的に活用していることから、連携もしやすく、情報交換も活発に行われています。



## 成果

小学校敷地にあることから、子どもたちは自然と集まり、集団で遊ぶ機会が増え、予想以上の利用があります。また、卒業した中学生の来館も多く、地域の高齢者と折り紙を楽しむほか、けん玉、将棋など、ゲーム以外の遊びも充実。あいさつや靴を並べること、ドアの開け閉め、言葉づかいなど、ボランティアから自然に繰り返し指導することにより、子どもたちの態度にも、はっきりとした変化が感じられるようになりました。また、2つの校区が運営委員会で話し合うことで、今まで意外に知らなかった両地区の行事を知ることができたり、教育委員会の行事で、両校の1年生、幼稚園、保育所の子どもたちがいっしょに人形劇を見る大きな事業も開催できるようになったりと、成果が現れてきています。ボランティア交流会などで、大人も話し合いの機会が増えており、人は話をすることで、より理解しあい、身近に感じられることが実証されていると感じます。

## 課題

毎日開館することが軌道に乗り、これから独自の取り組みを実施します。健康講座や伝承遊び指導、コンサートなどを受益者負担で行い、今後の運営費の一助とします。また、NPO法人化により、将来的に安定した運営を目指します。

## 夢・抱負・今後の推進方向

瓦木小学校区と深津小学校区の2地域で気持ちを合わせて、共にまちづくりに取り組むきっかけとし、地域の課題は地域で解決する地域自治の姿を目指します。また、小学校敷地にみんなが集まる居場所を整備したことで、学校がさらに開かれた地域住民のよりどころとなり、子供たちの安心安全が、地域で守られる新たな取り組みとなれば幸いです。

そのために、まずは現在の毎日開館を継続。賛同者を増やしながら、それぞれの得意なことを生かせる、ボランティアの活動の拠点としても、充実させていきます。

団体名：瓦木・深津県民交流広場運営委員会

氏名：委員長 山本 三千

事務所の所在地：西宮市大屋町10-37

電話：0798-20-5608 FAX：0798-20-5608

E-mail：poccapocahiroba@maia.eonet.ne.jp

## ノウハウ・コツ

### ②活動資金

#### 必要に応じて利用料を徴収

- (1)飲み物は100円（子どもの麦茶は無料）
- (2)団体で事務所機能を利用する場合、年間使用料を徴収する（※22年度より徴収）
- (3)印刷機の利用は原稿一枚につき500枚まで100円  
※経費はまかなえていない。全額とはいかないが値上げを検討  
→ 助成金終了後は、各種助成金制度を活用して活動資金を確保します。

### ①人材養成

#### ボランティアを募集

定期的にボランティア募集のチラシを配布し、広く人材を募集したり、ボランティア団体、大学などに協力を呼びかけ、イベントに協力してもらったりしています。今後、NPO設立後は、当地域にとどまらず様々な研修や講座を活用し、また、自主開催の講座などで人材の育成に努めます。

毎年、中学校のトライやるウィークで生徒を受け入れ、蔵書の入力や新しく購入するおもちゃの選定など、協力を得ています。また、勉強に来ている、日頃は利用者である若い人たちが、卒業してもボランティアとして定着することを願っています。

### ③活動場所

#### オープンな活動拠点

新しく綺麗な施設を設置したことが、人を集める効果へとつながったと痛感しています。人が集まると、自然に人的交流が図れるため、それをスタッフがサポートして、気楽に来館者が憩える雰囲気づくりに努めています。また、大人が大切に使う態度を見せると、子どもたちもあまり乱暴には利用しません。

学校の絶対下校時間までは、運動場で遊ぶことができるため、部屋に閉じこもって遊ぶイメージではなく、元気が余っている小中学生には恵まれた環境にあります。窓を大きくすることへのこだわりも、中からも外からも様子が良く見えるオープンな活動拠点につながっています。

### ③活動場所

#### きめ細かい心づかい

中庭の花のお世話や、広場館内の飾りつけ、お茶をふるまうなど、きめ細かい配慮のおかげで、青少年の利用にとどまらず、高齢者や小さい子ども連れの親子など幅広い来館者があり、それぞれ交流しながら自由に過ごしています。

## ひとことメッセージ

よく地域課題を見極めること。地域課題を解決する情熱が、あらゆる面倒と責任より勝るかどうか問題です。今から県民交流広場を活用しようかという人には、この点だけを考えられては？とアドバイス致します。とにかく施設や活動が出来ればわかってもらえるから、と言った当初の予想は嘘ではなく、2小学校区統合で立ち上げたことへの批判もあったように聞きましたが、今では、深津校区の町内のイベントや子育て支援などでも活用され、喜ばれており、結果は実施してよかったと思っています。

おかげさまで、兵庫県、西宮市などから適宜情報をいただき活用しております。20年に兵庫県をベースとしたSNS「ひよこむ」の関係で家庭教育コーディネーターを受けたことから、引き続き県民交流広場の開館情報を更新。今年度はキャンプや県内の子育て情報などの提供が出来ないか検討中です。

## 自主と自立のまちづくり

## 活動の概要

阪神・淡路大震災の時に地域の連携がみられなかったことから危機感を持ち、自治会、PTA、民生委員、補導員等が中心となって、校区の住民全員を対象に当会を設置しました。

各部(福祉部・青少年部・健康部・広報部・防犯グループ)が展開する多彩な事業活動を通して、地域とのふれあいを深め、ずっと住んでいたい、住んでよかった「小浜小学校区」となることをめざしています。

「自分たちの地域は自分たちでよくしていく！」というみんなの熱い思いが、相談事業、独居老人を対象とするいきいきサロン、小学生等を対象とするミニ児童館、乳幼児教室、母親向け講座、太極拳、健康体操、リズム体操、子どもの安全マップづくり、地域のパトロールなど多様な活動につながっています。



カブラで遊ぼう

## 成果

平成 18 年に「小浜まち協会館」がオープンし、ここでいろいろな活動をすることで利用者が年々増え、地域交流、親睦の輪が広がっています。当校区の住民数は約 1 万人ですが、平成 20 年度の利用者は 5,000 人を超えました。

## 課題

現在のメンバーは時間的に余裕のある人が多いですが、より多くの若い世代の人たちや男性に活動に参加してもらえるよう働きかけたい。



1.17をわすれない 炊き出し訓練

## 夢・抱負・今後の推進方向

校区内には 12 の自治会がありますが、自治会活動とは違った視点で、校区のみんなでまちを活性化し、いつでも誰でもが楽しめる地域づくりをめざしたい。



多世代イベント



サマーフェスタ

団体名：小浜小学校区まちづくり協議会

氏名：藤本 真砂子

事務所の所在地：宝塚市小浜 4 丁目 7-10

電話： 0797-86-2351 FAX： 0797-86-2351

①人材養成

効率的でむりのない方法に軌道修正

役員のなり手がなく、同じ人がいつまでも役員をする状況ですが、楽しくやれる方法、忙しくても受けてもらえる方法等、効率的に無理なく活動が続けられるよう、また、一部の人たちに負担がかからないよう、活動内容の見直しや方法の検討をしています。また、参加しやすい機会を増やして広く呼びかけをしています。

例えば、防犯パトロールの参加者が減ってくると、日常的にウォーキングや犬の散歩をしている人にパトロールの腕章をつけて歩いてもらっています。既存のグループに新たに加えるのはしんどいことなので、気軽にやってもらえる負担のない代替案を考え、それが協議会との関わりを持つ機会になればよく、間接的な参加でよとしています。

⑤広報・情報共有

生きた情報が有効な情報呼び込む

当協議会の活動を知ってもらうためには、広報は大きな役割を果たしています。隔月発行の『まちづくりの輪』では、現在の地域の課題をとりあげたり、幼稚園・小学校の課題や取り組み、地域のデイサービスの状況、協議会で話題となっている話、市長のコメント、重要な活動、各部の活動紹介、多団体の取り組み等、校区内で起きていることを多岐にわたり、掘り下げた内容で記載しています。広報部がまめに取材に行き、生の声を聞いてつくりあげた紙面は、住民の関心の高い内容となり、また、住民の意見や思いが反映されたものになっています。このような住民に役立つ情報の発信がさらに情報を呼び込むという循環型のすばらしい効果が出ています。

⑥ネットワークづくり

分野や地域にこだわらず交流を

こちらからアンテナを出して、ほしい情報を聞きに行くというスタンスをとり、他の団体や大学、行政等から協力依頼の声をかけられたら、積極的に参加しています。いろいろな団体と交流することで、情報の収集、新たなノウハウの習得、活動のPR効果など多くのメリットがあります。

散策案内板や散策マップなど目に見えるものを作成することで、他の地域のまちづくり協議会からいろいろな声かけがあります。また、いろいろな団体との普段づきあいの雑談の中から活動が広がっていきます。

ひとことメッセージ

活動を始めてみてください。いろいろな人と知り合え、仲間が増え、毎日が充実しますよ。

活動内容を考える時、地域にはすばらしい能力・技術を持った人がたくさんおられるので、そんな人を探し出すのも活動がうまくいく方法の1つです。



ふれあいバスツアー

## 「歌声列車」で地域と沿線の活性化をめざして

### 活動の概要

JR加古川線沿線の人々の交流と地域活性化をめざして、車両を現代風の歌声喫茶にアレンジし、みんなでバンド演奏にあわせて、歌謡曲や唱歌を歌いながら、加古川から谷川までの往復4時間の列車の旅を楽しむ「歌声列車」を運行しています。

途中の西脇市駅での休憩時間などには、地元産の野菜や特産品の販売、趣向を凝らした演奏会なども行っています。



### 成果

いまでは、乗車抽選の競争率が5倍になるほどの人気になりました。何度も応募していただきながら、なかなか抽選に当たらない方には申し訳ない限りです。

歌声列車に参加したことがきっかけになって、ぜひともこのような活動に関わりたいと、地域ビジョンの活動に参加される方もみられるようになりました。

歌声列車の取り組みがきっかけになって、丹波、北播磨、東播磨の3つの地域でつくる「JRに乗りろう会」（三地域協議会）が発足し、定期的な交流を重ねています。また、歌声列車の当日も、沿線で多くの方々が応援してくださるようになりました。

### 課題

できるだけ皆さんに気軽に参加していただけるよう、参加費を抑えるために、いかにして運行費用を工面するかが課題です。

また、スタッフが女性中心のため、列車の運行当日に車両に乗せる音響機器や荷物の運搬などの力作業がひと苦労です。お手伝いいただける男性スタッフを募集しています。

### 夢・抱負・今後の推進方向

さらに地域間の交流を進め、協力体制を築きながら継続できるようにがんばっていきたい。

次回はいよいよ10回目の記念運行を迎えます。これからも多くの方々に加古川線に関心を持ってもらい、沿線地域の活性化、利用者数の向上に少しでも貢献できればと考えています。

団体名： 歌声列車の会

氏名： 三村 修 (みむらおさむ)

事務所の所在地： 675-8566 加古川市加古川町寺家町天神木97-1

電話： 079-421-2289 FAX： 079-421-2289

## ノウハウ・コツ

### ⑧組織運営

#### 自分たちも楽しみながら活動する

「次はいつやるの？」とよく声をかけられます。歌声列車の運行を楽しみにしている方がたくさんおられることが、わたしたちの励みにもなっています。

お客さんに楽しんでいただくために、運行の度に、少しずつでも趣向を凝らした工夫をしています。そのことが、自分たちも楽しみながら参加できることにつながっていると思います。



### ⑥ネットワークづくり

#### 地域を越えた交流の展開

歌声列車の運行を通じて、東播磨地域だけでなく、加古川線沿線のたくさんの人たちと知り合いになりました。また、歌声列車の運行にかかわっていただけるようになりました。交流会を重ねることでお互いのきずなも深まっています。



### ⑩その他

#### 熱意は必ず通じる

いまでは、すっかり定着しましたが、最初、手探り状態ではじめたときは、このような話にJRが応じてくれるのだろうかということから始まり、決して見通しが明るかったわけではありません。

しかし、会のメンバーの加古川線沿線を活性化したいという強い思いをあきらまずに持ち続けていたからこそ、JRに願いが通じたのだと思います。



## ひとことメッセージ

- 歌声列車に参加された方が、そこで友達をつくったり、活動を手伝ってくださるようになったりと、輪がどんどんと広がっているのを感じます。
  - JRにとっても大事な企画であるとおっしゃっていただき、全面的にバックアップしてくださっています。
- 皆さんも、ぜひとも加古川線にご乗車ください。

### 活動の概要

児童数の激減によりできた小学校の余裕教室を活用して、地域住民がいつでも自由に利用できる広場を開設しました。「童謡唱歌」「手芸」「詩吟」「囲碁」「マジック」等の定例行事のほかに、週4回の「語らい喫茶コーナー」での住民交流や春と秋のパソコン教室、毎月メニューを変えた体験教室の開催など活発な活動を展開しています。

7月には子どもを対象とした“たなばた会”、11月の大正琴や童謡唱歌の発表の場となる“なんなん祭”も定着し、活動の幅を広げています。

学校を拠点とした広場の展開により、参加者（地域住民）と小学生の接触の機会が多くなり、挨拶運動の活発化や防犯に対する意識の向上にも効果が出てきています。



### 成果

開催メニューが多彩になり、住民の関心は校区を越えて全町民へと広がり、パソコン教室や体験教室はいつも定員を超える応募がうれしい悩みとなっています。また、大正琴や詩吟など広場の教室から新たに同好会活動に発展するなど、新たなコミュニティの広がりが、今後とも期待できます。他の公共施設とは一味違う運営を心がけており、空室があればいつでも利用できる自由度がサークル活動の利用を含めて利便性を高め、毎月1300人を超える利用者は他の公共の施設には見られない成果を生んでいます。

### 課題

活動資金の確保について、語らい喫茶コーナーの利用協力金に加え、体験教室参加費や定例行事参加者に協力金をお願いするなど収入の拡大を図ってきましたが、今後は喫茶開催日の増、サークル活動などの利用者からの協力募金で増収を図りたいと考えています。

人材確保の問題では、PTA役員として参画した経験者がそのまま委員として活動してもらえる素地ができつつあるが、設立当初からの委員との年齢差が大きく、中間層の人材確保、特にリーダーとなる人材の育成が課題です。

### 夢・抱負・今後の推進方向

学校施設を利用した広場の特性を活かした活動、例えば広場参加者が学校行事に参加したり、学童が広場の行事に参加する機会をより多く持つことにより、広場参加者そのものが学童との関わりの中で、子どもの安全や健全育成に寄与できることです。

若い層に、人気の高いメニューの開拓。子育て層参加のメニューを子育てボランティアと協力して取り組みたい。但し、活動の広がりには委員の負担が増大する結果につながり、従来からの活動と新しいメニューをどのように取捨選択するか、委員の年齢構成なども考慮しながら検討を進めたい。

**団体名：**天満南県民交流広場推進協議会

氏名：会長 三井津 勝之

事務所の所在地：加古郡稲美町森安81（天満南小学校内）

電話：079-492-7690 FAX：079-492-7690

E-mail：nannanhiroba@ybb.ne.jp

ホームページ：本年中に開設予定

## ノウハウ・コツ

### ①人材養成

#### 新たな人材の発掘

18年度からPTA役員も参画するシステムとなり、さらにPTA役員退任後も活動を続けるよう要請、現在経験者は4名。年2回程度、一般公募を行うが、応募者がいないのが現状で、委員自らが新しい人材を発掘する方法で確保していきたいと考えています。

### ②活動資金

#### 自己調達力の強化

語らい喫茶コーナーの協力金（17年度より）、推進協議会開催行事の参加料（18年度より）、イベント参加者からの協力金（19年度より）を実施中。費用削減のため、地区住民からの提供（書籍、おもちゃ、そろばん、茶器など）を受けています。

今後は喫茶コーナー開催日を週3回から週5回に増やし、サークル活動の利用者には協力募金（使用料ではない）を募り、収支のバランス維持に努める考えです。

### ⑤広報・情報共有

#### 町広報に折込み

毎月全戸配布される町広報に広場のニュース、行事案内チラシを折り込み、町内全域から参加者を募集しています。

今では楽しみにしている住民も多く、毎月メニューの異なる体験教室も配布後2～3日で定員となるケースが多い。

メニューの選定は委員の提案と各種行事参加者のアンケート結果を参考に、指導者探しから行っています。パソコン、切り絵、柿渋などでは委員自らが指導者になるケースもあります。

### ⑨活動の展開

#### 参加機会の創造と提供

広場として、いつも同じメニューを利用者に提供するだけでは特定の人への利用に留まり、新たなコミュニティの創生には寄与しません。そこで協議会自らが行事を企画・開催して、いままで地域の活動に参加した経験がない住民が気軽に参加できるメニューを創りだし、幅広く参加の機会を提供しました。

このことが1年後2年後に同好会となって新たなコミュニティの醸成につながっています。（大正琴、詩吟、囲碁など）

また、学校とタイアップした活動も参加者の子どもに対する意識の改革？（改めて気づかれたというべきかも知れないが、主に子どもの安全に関して）につながっていると思います。

## ひとことメッセージ

- ①開催行事の指導者などには、稲美町の“夢作り案内人”に登録されている方々にお願いするケースが多い。各市町にも同じような登録制度があり、とても素晴らしい案内人がおられます。アトラクションなどに大いに利用してはいかがでしょうか。
- ②県民交流広場は、地域の学校を拠点とした活動の展開がより多くの児童と接する機会を作り出し、子どもを育てる地域づくりの意識醸成につながると思います。
- ③高齢者には“学校は聖域”という意識がある。学校を自分たちで守り、育てるという意識が芽生える工夫も必要です。（学校行事への積極的な参加・・・学校側の理解が重要）
- ④当広場は“なんなん広場”という愛称で親しまれています。地域の特色や活動を親しまれる愛称で呼び合ってみてはいかがでしょうか。

## 地域の伝統文化保存と地域資源の活用で「<sup>はせがい</sup>箸荷」の活性化を！

### 活動の概要

箸荷地区は世帯数 57 戸の小さな集落です。地区では、区長を委員長として「はせがいむらづくり委員会」を設置し、住民のコミュニケーションづくり、地域の活性化、地域外への情報発信に取り組んでいます。当委員会には、部会として①(集落の)役員会②老人会③婦人会④子ども会⑤むら芝居保存会⑥紅茶の会、の 6 つがあり、特に、むら芝居保存会と紅茶の会を地域の活性化のための具体化な活動の柱として展開しています。

(むら芝居保存会) 一度途絶えた「むら芝居」を平成 5 年に消防団が復活させ、平成 14 年に芝居の舞台を備えた公民館「箸荷むらづくり館」が完成したのを機に、地域の伝統行事として保存し、地区を挙げて芝居の里づくりを進めようと設立。同時に全国むら芝居ネットワークを立ち上げ、同年「第 1 回全国むら芝居サミット」を開催しました。

(箸荷紅茶の会) 紅茶作りを通し、集落内の世代の異なる女性の和づくりをしたいと平成 14 年に立ち上げました。地域に植わっているお茶の木からつくった紅茶のほか、紅茶うどん、紅茶クッキー等を開発し、今では多可町の認証商品となっています。平成 15 年には会員の畑に約 400 本の茶の木を植え、平成 18 年には「箸荷むらづくり館」で紅茶まつりを開催、19 年には「全国地紅茶サミット」の開催地となりました。

### 成果

県内外の自治会等の視察が多くなっています。

全国各地の国産紅茶の生産者や地紅茶を使ってまちづくりをしている人たちとネットワークが築けました。また、全国地紅茶サミットを当地で開催することによって、箸荷紅茶、紅茶うどん、紅茶クッキーを多くの人に知ってもらい、売り上げが伸びています。

### 課題

若い人に加わってもらい、活動を継続していくしくみをつくっていく必要があります。

### 夢・抱負・今後の推進方向

若者も高齢者も箸荷地区の活性化に向けて意思疎通を図り、むら芝居保存会は小・中学生も含めて地域ぐるみで取り組む世代間交流の場とし、紅茶の会は、会員同士の関係や活動を今以上に楽しいものにして若い人たちに引き継いでいきたいと考えます。



第 6 回全国地紅茶サミット in はせがい



箸荷全景

団体名：はせがいむらづくり委員会

氏名：事務局 今中 孝介

事務所の所在地：〒679-1334 多可郡多可町加美区箸荷 73

電話：090-8938-6282

E-mail：kosuke\_imanaka@takacho.jp

## ノウハウ・コツ

### ①人材養成

#### 視察への対応はメンバーの学習の場

県内外の自治会から視察の希望が多くあり、視察に来られた時にはメンバーが交代で案内や活動の説明をしています。視察に対応することで、いろいろな情報が得られる、交流が始まる、プレゼンテーション能力が高まる、地域のよさや活動のよいところを再認識する、各自が今後の課題を考える機会となりうる等、たくさんのメリットがあります。

### ②活動資金

#### 補助金は後からついてくるものと割り切る

年度当初に事業計画を立てておき、補助金は後からついてくるものと割り切り、補助金の有無に関わらず当初計画どおりに事業を行うことを心がけ、補助金の募集があれば必要に応じ応募しています。

いろいろな助成金制度があるので大いに利用すべきです。ポイントは、①会の目的を明らかにすること ②助成金の使途を明らかにすること ③新聞記事のスクラップなど実績のわかるものを添付することです。あとは熱意を伝えることではないでしょうか。

### ⑨活動の展開

#### 特産品づくりは一工夫を考える

箸荷の紅茶加工は、各家に昔から植えられているお茶の木から茶葉を集め、紅茶に加工するところから始めました。平成15年には会員の畑を借りて約400本のお茶の木を植えました。これは山に生えているお茶の木を植え替えたものです。

多可町には、特産品開発のためにつくられた町立の特産品開発センターがあり、紅茶クッキーはそこを借りて製造しています。また、紅茶の粉末を練り込んだ紅茶うどんは、他市の製造業者へ加工依頼し、紅茶の発酵も他県の専門業者に依頼しています。当会ではメンバーが商品企画はしますが、必要に応じて加工依頼先を探し、利益は少なくなりますが製造の機械や場所など先行投資はしていません。

また、メンバーそれぞれが、販売してくれる店をさがしたり、通信販売のセットに組み込んでもらうなど、積極的に販売ルートを開発しています。



### ひとつことメッセージ

自分の住んでいる地域にも素晴らしい人がおられますが、活動範囲を広げれば広げるほど、今まで出会ったことのないような人との出会いのチャンスがあります。しり込みしないで、今すぐ飛び立とう！

箸荷むら芝居保存会・箸荷紅茶の会についての詳細は、「箸消興行」でネット検索してください。

## 宇仁郷に住んでみませんか！

### 活動の概要

加西市宇仁地区は人口 2,000 名の田園の広がる静かな地域です。少子高齢化が進むなか、地域の活力が低下するおそれがあるため、限界集落の危機感をバネに、市立宇仁小学校の存続を当面の課題として、“安心して住める宇仁郷”をモットーに小学校区 6 町が連携して人口増加をはかるための活動を展開しています。

地域の活力を取り戻すため、5つのプロジェクトに取り組んでいます。

- ①子育て支援センターの運営・・・子育て中のお母さんの負担を軽くするため、60名のボランティアが5歳～小学3年生を対象に預かり保育を実施
- ②宇仁の里・花畑街道・・・「春は菜の花、秋はコスモス」をキャッチフレーズに、中国高速線バス停～JR滝野駅の約15kmの沿道の花いっぱいにする
- ③宇仁の朝市・・・中高年の野菜づくりを生かし、生きがいつくりにつなげるとともに、地産地消を推進するため、毎日曜日に新鮮朝市を開催
- ④定住の促進・・・宇仁郷出身者で近郊都市に居住している人に帰郷を促す活動を推進
- ⑤里山ふれあいの森・・・奥山寺・八王子神社周辺等の里山づくりを計画。都市部との交流の促進

### 成果

都会の人に緑豊かな宇仁郷を知ってもらうため、菜の花まつり、コスモスまつり等のイベントに併せて花いっぱい運動を地域の人に提唱してきた結果、地域の人が自分の特技をボランティアで地域に活かし、貢献できる喜びが生まれてきました。



### 課題

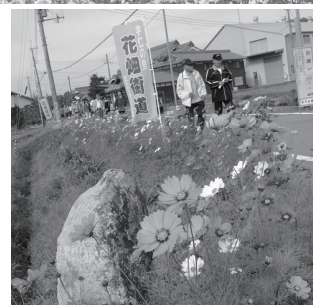
5カ年計画を立てて住みよいまちづくりの理念を共有し、活動を進めていますが、若い人たちの参加をどのように促すか、また、自分の時間とボランティアに割く時間の配分、活動資金を自前で調達できるなど、活動が長続きするにはどうすればよいか課題となっています。



### 夢・抱負・今後の推進方向

各々のプロジェクト(部会)の成果が確実に出てくるようになれば、相乗効果により住みよいまちに一步前進すると期待しています。

当面、若年層の定住促進と人口増を図るため、Uターン対象者向けのパンフレットを作り、当地出身者で近隣市に住んでいる子育て中の人たちに訪問活動を行います。



団体名：宇仁郷まちづくり協議会

氏名：会長 丸岡 肇

事務所の所在地：〒675-2413 加西市油谷町460 (八王子会館内)

電話：0790-45-1711 (FAXも同じ) 090-3059-5008

E-mail：uni@heart.ocn.ne.jp ホームページ：http://www.ocn.ne.jp/~unigou/

## ノウハウ・コツ

### ①人材養成

#### 月2回の定例会の徹底

月2回の会合(第2・第4の月曜日 19:30～と設定)を定例的に実施することを徹底しています。1回は幹事会として、協議会全体の課題や方針について意識合わせをし、もう1回は各部会(プロジェクト)から進捗状況を報告してもらい、参加者全員でこうすればよいのではないかななどの意見交換をします。終了後、毎回、報告書を作成し、いつ何を検討したかがわかるように整理しています。

当初は、月2回も実施するのは負担が大きいと苦情もありましたが、できるだけ多くの意見が出るように、また、出てきた意見は大事にするなど、会合がうまくいくように事務局の運営の仕方がポイントになります。

大切なことは、活動の理念を持続的に共有しながら、自己の役割を認識し、役目を果たしてもらうこと。方向性が変わらない限り任せることで自信もつき、自己の達成感が充実感に変わり、人は育ちます。

### ⑥ネットワークづくり

#### 地元の事業主を巻き込む

事業の実施にあたっては、地元の事業主にもメリットがあるように積極的に働きかけ、協力を得ています。

例えば、民間の温泉施設には、「ここで朝市をさせてほしい、客を増やすので場所を無料提供してもらえないか」と交渉し、了解を得ました。地元のゴルフ場には、同協議会が作成する地域マップ等でゴルフ場をPRしたり、住民にゴルフ場の利用を促すからと交渉し、朝市で余剰となった野菜を買い取ってもらってレストランの食材に使ってもらっています。さらに事業者には「ボランティアが必要なときは声をかけてほしい、人を出すから」と持ちかけています。

また、地元の事業者との日頃のつきあいが大切です。菜の花まつりなど地域のイベント開催時には必ず地元の事業者を来賓として招き、イベントの抽選会の商品として提供された入浴券、ゴルフのプレー券、レストランの食事券等を紹介しています。



### ⑦行政の活用

#### 行政へ積極的に情報を届ける

当協議会では、年度当初に5つのプロジェクトの概要をまとめ、幹事会が加西市の関係部署に届けています。その時に各プロジェクトの市の窓口がどこかを確認してきます。市にとっては協議会の取り組みがわかり、助成金情報などを提供しやすく、また、プロジェクトメンバーにとっては市への相談がスムーズになります。

また、地域づくりの根本に関わる校区の存続を「魅力ある宇仁小学校構想」としてまとめ、協議会から市長、市教育委員会、議会に具体的に提案しています。

行政の(部長など管理者ではなく)担当者と親しくなるのが情報を得るコツです。「また来たか」と言われるくらい出かけて行ってアンテナを張らないといけません。

## ひとことメッセージ

[助成金、補助金の活用・利用について]

現に受けている助成金等のほか、複数の事業計画がある場合は、内容に応じて他の助成等も受けられる可能性があるため、役所等へ行った時には尻込みしないで様々な部局へ聞きに行くことです。

## 子どもたちと連携した継続性のあるまちづくり

## 活動の概要

千年以上前に建立された住吉神社・酒見寺の門前町であった北条の宿は、山陽・山陰を結ぶ交通の要衝として栄えました。明治から昭和初期にかけて、商業・流通の拠点として多くの商家が贅を競い、卯建、虫籠窓、鰻絵、出桁造りなどその名残を今に残しています。そのような歴史・文化遺産を生かしながら、景観・環境づくり、防災意識の向上を図り、まちを愛する人たちの心を豊かにするまちづくりを推進しています。

特に、10年後のまちづくりを考え、次世代を担う子どもたちを参画させることを重要視しています。子どもたちと一緒に取り組むことによって、子どもたちはまちに愛着を持ち、まちづくりの後継者育成につながります。

子どもたちへの学習支援として、北条小学校、富田小学校、西在田小学校の総合的な学習の時間を活用して(年 16 回程度)、歴史学習、防災体験学習、まちなみ描写、福祉学習などに取り組んでいます。

- ◆歴史学習：昭和 30～40 年代の生活用具（ダイヤル式電話、洗濯板、鉄製アイロン、さおばかり、ジャンメ傘、かまど、真空管ラジオ、チャンネル式テレビ等）を持ち込み、用具に触れる。まちなみ今昔を写真等からつかみ、くらしの変化について学習する。
- ◆防災体験学習：まちなみの防災設備や消防署の見学を通して災害時の対応と地域の人や関係機関との連携の必要性を学ぶ。
- ◆まちなみを画く：まちなみの歴史や文化に触れる。将来、まちなみの変化を知る教材とする。
- ◆福祉学習：視覚障害者と点字やアイマスクの体験を通じた交流学习を行い、日常生活から自分たちのできることを学ぶ。

## 成果

学習後、子どもたちは、まちの魅力に気づき、誇りを持ち、まちへの思いをミニ新聞にしたり、関係者にお礼の手紙を届けるようになりました。

体験活動を通じて子どもと大人がふれあうことで人権意識が芽生え、育ちます。両者にとって心づくりの場となっています。

## 課題

総合的な学習時間が減少傾向にある中で、今後どう進めていくか。

## 夢・抱負・今後の推進方向

手や肌で触れ、体験したことは心に残ります。このような活動をすることで子どもたちの心に「ふるさと」を残してやりたい。



まちなみを描く

湯たんぽ  
に触れる

団体名：北条地区まちづくり協議会（NPO法人まちづくり北条）

氏名：（代表）松本正光

事務所の所在地：加西市北条町北条 8 7 2

電話： 0 7 9 0 - 4 2 - 2 3 9 5 FAX： 0 7 9 0 - 4 2 - 2 3 9 5

E-mail：masamitsu@muc.biglobe.ne.jp

ホームページ：http://www.nehime-net.jp/net/hojo/

## ノウハウ・コツ

### ⑤広報・情報共有

### 住民と活動状況を共有

協議会ニュースを毎月1回発行し、7年目を迎えました。パソコン好きのメンバーが数人で編集しています。住民同士の活動状況の共有を目的とし、協議会の活動、子どもたちの活動状況、各区の情報を掲載しています。

平成18年に紙面構成・編集が加西市から協議会に移行し、平成21年には各戸回覧方式を13町から北条小学校区全21町に拡大しました。小学校にも配布しています。4年目になると、掲載してほしいと記事が各区から自主的に寄せられるようになってきました。住民から「楽しみに待っているよ」という声が出てきました。



北条まちづくり協議会ニュース【第91号】

### ⑥ネットワークづくり

### 全国に向けて発信することで仲間が増える

平成20年度に国土交通省が主催する「将来の地域づくりの担い手の育成」シンポジウムで先進地事例のひとつとして「子どもたちと連携した継続性のあるまちづくり」を発表しました。その他に県内外10会場で報告の機会を得、まちづくりについて話し合える仲間が増えました。声がかかった時は必ず参加し、当会の活動をPRするとともに、いろいろな人の意見・アドバイスを聞く方針にしています。

また、活動を振り返って年度ごと事業ごとにまとめておくことをお勧めします。助成金申請時や活動報告書の作成時に参考資料として添付するためです。活動の方向性の確認に役立ち、また、常に準備しておけばいろいろな場面で効率的に活用できます。

### ①人材養成

### 日々学ぶ

国土交通省のまちづくりのアドバイザー派遣事業に応募し、年間を通して指導を受けました。また、交流会（視察・受入れ）事業を促進し、活動情報（活動・成果・課題等）を交換しています。神戸地域のまちづくり関係団体の交流会にもメンバー代表を送っています。このような視察・報告・交流会から活動のヒントをつかみ成長しています。

イベント開催時に役立てるために「食品衛生管理責任者」講習会に参加し、資格を習得しました。ボランティア活動をしながら個人的に身につくものがあれば、人材育成や協議会の活動の充実につながります。

交流の幅を広げるために北播磨地域ビジョン委員にメンバーを送り出しました。会でのボランティア活動の体験を生かして地域リーダーとして活動できる機会をつくることも協議会の役割と考えています。

## ひとことメッセージ

地域のボランティアグループは、技能と知恵の宝庫です！

## 『町衆のパワーによるまちづくり』

### 活動の概要

「市立コミュニティセンターおの」の一部をレストランに改修し、食を通じた地域住民の交流拡大のため、地域住民の参画によるコミュニティレストランを運営しています。

レストラン運営に携わる人材を地区内から公募するとともに、地元農家の米、野菜、卵などの食材を使用し、また、茶碗、皿等の食器はコミセンの活動サークルが作成したものを使用しています。店内の展示・装飾も地域住民が行うなど、手作りの運営を試みています。

健康に配慮したメニューやスタッフの心のこもったおもてなしに、訪れる人も増えつつあり、住民スタッフも利用者の喜びの声を励みに、コミュニティ・ビジネスの展開に力を注いでいます。



### 成果

月平均 4,000 人以上の方に利用していただき、地域のコミュニティレストランとして大いに賑わいを呈しています。

コミセンサークル団体、地域人材の参画、食材提供により、コミレスを核とした新たな地域づくり活動へと発展してきています。

ホールや市民ギャラリー、各種イベントと一体化した多彩なコンサートや展示会の企画が増えてきています。

### 課題

コミセンおのへの認識及び住民の相互交流や地域的連帯感が希薄で、共同的意識が低いことから、さらに参画と協働、コミュニティ意識を上げていく必要があると考えています。また、コミレス陣屋では地域の食材を活かした名物料理が必要であると考えています。

### 夢・抱負・今後の推進方向

現在の運営時間帯は、昼間（9：00～17：00）となっていますが、今後、若者も集えるよう夜間の運営などを考えています。

『地域の課題は地域で解決』を理念に、小野地区地域づくり協議会では、新たに企画・広報部会を立ち上げ、今後の課題について検討を重ね、実践する目標等を定めて取り組んでいく予定です。

団体名：小野地区地域づくり協議会

氏名：(会長) 西尾 英昭 (問い合わせ対応者：コミセンおの：中塚・上田)

事務所の所在地：小野市王子町 806-1

電話：0794-63-1020 FAX：0794-63-1138

E-mail：cc-ono@city.ono.hyogo.jp

ホームページ：http://www8.ocn.ne.jp/~onet/top.html

②活動資金

補助金の活用を！

地域コミュニティ活動支援事業として、地域課題の解決や地域の活性化を図るため、小野市から補助金を受け、小野地区地域づくり協議会には年間 600 万円の補助を受けています。

①人材養成

自主性を大切に！

区長会、商店街連合会など各種団体、公募委員などさまざまな団体、年齢層から参画をお願いし、毎年度、役員選出を行うこととしています。

また、各部会を組織して活動内容を定めるとともに、すべての委員が活動に参画できるように、自主性を尊重して運営を行っています。

⑤広報・情報共有

双方向による情報共有が大切！

企画・広報部会のメンバーが、地域づくり活動やイベントの様子を取材し、広報誌「陣屋の風」を年2回発行しています。

また、平成 21 年 10 月 1 日から「小野地区地域づくり協議会」のホームページを立ち上げ、各部会の活動や広報誌の閲覧ができるようにしています。また、「町衆ブログ」と題し、イベントの記録や一般閲覧者による書き込み等、双方向による情報を共有しています。



ひとことメッセージ

毎年12月初旬頃から年明けの1月15日頃まで、クリスマスイルミネーションを実施しています。1月には、成人式がありますが、故郷に帰ってくる二十歳の皆さんが、このイルミネーション、この「輝いている小野」を見て、感動を覚えると共に、「やっぱり故郷はいいな」と実感いただけるものと思っています。

クリスマスイルミネーションを契機として、「賑わいづくり」が「誇りづくり」となり、その「誇りづくり」が地域を愛する「愛着づくり」に繋がることを願っています。

## 活動の概要

平成 15 年 6 月、市民活動をしている人や中小企業経営者らが集まって始めた「スロービジネス研究会」がきっかけとなり、毎月 1 回程度の勉強会をするうち、子育て中の主婦が託児つきの料理教室を始めるなどして活動が始まりました。兵庫県立大の学生たちとともに夏至と冬至の日に行う 100 万人のキャンドルナイトや、近所の農家に土地を借りて菜の花プロジェクトに取り組みました。

17 年に「スローソサエティ協会」として活動が本格化し、19 年 8 月には特定非営利活動法人となり、スローソサエティの創造を目指して、子育て家庭支援事業、環境保護の普及啓発事業、まちづくりの推進事業など、幅広く活動を行っています。

具体的には、スローライフを学ぶスローライフ講座、子育て中のお母さんが自分育てをする場を提供する「ひめまま・さろん」の開催のほか、今年度は、姫路駅前から姫路城にかけての「姫路の顔」エリアのまちづくりに市民参加の場をつくる活動、姫路市の 4 つの小学校にグリーンカーテン（ゴーヤやひょうたんのカーテン）をつくる取り組み等を行っています。

## 成果

安価だけでなく、安全なものを子どもに食べさせたいと思っているお母さんが多く、活動への関心は高く、スローフードの料理教室は年間 20 回、延べ約 300 人、託児つきの「ひめまま☆さろん」は年間 30 回、延べ約 200 人の参加があります。これらを通じて食の安全を考え、伝統に学ぶことや、子育て中のお母さんが自分育てにも取り組むなどの成果がありました。

## 課題

事務局スタッフの確保と待遇面の向上が課題です。事務局スタッフは無償ボランティアではできないので、運営資金を確保するために会費、寄付金、協賛金を集めるほか、事業収入を増やす取り組みをしています。

## 夢・抱負・今後の推進方向

姫路のまちなかでの活動を多様に展開するとともに、周辺の自然や農業との連携をはかり、多様な事業展開を通じて、地域内循環によって持続できるスローな地域づくり活動を進めていきたい。

経済成長だけでなく多様な豊かさを追求し、様々な分野に活動を広げていくことが大切。



グリーンカーテン ゴーヤの収穫作業



スローフード料理教室

団体名：特定非営利活動法人スローソサエティ協会

代表者氏名：(理事長) 米谷 啓和 (事務局) 藤浦 剛

事務所の所在地：〒670-0028 姫路市岩端町122-1-109A

電話：079-297-4812 FAX：079-297-4812

E-mail：slowoffice@memenet.or.jp

ホームページ：http://www2.memenet.or.jp/slowsociety

## ノウハウ・コツ

### ⑤広報・情報共有

#### マスコミとはこまめに連絡を

マスコミ関係者と知り合うことが多いのがこの分野の特徴です。活動の趣旨を話し、共感してもらうとともに、懇意にしている記者にはこまめに情報を流して記事に取り上げてもらうよう、お願いしましょう。

また、姫路市役所の記者クラブをよく活用しています。姫路市の場合、市民からの記者発表も受け付けており、記者クラブの幹事者と市の広報課が記者発表の対象とするかどうか、対象とするならいつ発表するかを決めていますので、記者発表させてほしいと積極的にお願いしています。

### ⑨活動の展開

#### 講座参加者を事業運営の協力者に

「スローライフ講座」の料理教室では、常連さんが口コミで参加者を連れてきてくれます。毎月発行する情報誌では、「ひめま☆さろん」の参加者が関連する記事を担当してくれています。このように各事業の参加者で事業運営の協力者になってくれている人が多くあります。

これらの人からよいと思うアイデアは柔軟に取り入れるようにしており、その結果、行事の内容も目新しいものが増えてきています。

### ⑥ネットワークづくり

#### つながりを大切にする

「姫路の顔づくり」活動では、市民、企業、行政と協働したまちづくりに取り組んでいます。住民、商店街の人、企業、利害関係者、建築を専攻する大学生、姫路市と勉強会をし、基本設計への提案をしています。21年4月に姫路市商店街連合会と当協会とで主催した「姫路の顔づくり」を考えるフォーラムには、地域のまちづくり協議会の方々も参加し、450人も人が集まりました。様々なイベントを実施していますが、これらイベントに参加した人とのつながりを大事にしています。



姫路の顔づくり活動



ひめま☆さろん

### ひとことメッセージ

人はお金のためだけに生きるものではないと思います。もちろん、仕事を通じて収入を得ることは大切ですが、社会にはお金にはかえられない大切なもの、必要なことがいろいろあります。多様な豊かさを増やす、切れかけているつながりを紡ぎなおすことがNPOの仕事だと思っています。苦勞が多いですが、ぜひ多くの方にNPO活動に取り組んでいただきたいと思っています。

## みんなで力を合わせて 良い町・人の輪づくり

## 活動の概要

活動のきっかけは、平成 15 年に家島ライオンズクラブが 800 平方メートル程の土地に桜の木を植えたことに始まります。ライオンズクラブから桜の木の管理を依頼され、できる範囲で協力するという事で引き受けましたが、その土地は大変な荒れ地で、毎日、石拾いや草刈りをして追いつかない状態でした。この状況を聞きつけた同級生などが協力すると言って、集まってくれました。

それから、みんなでその土地に花や木などを植え、家島の主産業の石材を使った花壇や煉瓦敷きの遊歩道をつくり、「さくら広場」と名付けました。

今では、同級生とその家族約 30 名で、毎週土曜日に「さくら広場」に集まり、広場の維持管理をしながら、交流を深めています。

また、花祭りやこどもの日のイベント、お月見会なども地元の商工会等と協力しながら実施し、人口が減少しつつある島で、楽しい人の輪がつけられるような活動をめざしています。

## 成果

広場には自分たちでつくったステージもあるので、大きな野外イベントを行う際によく利用してもらっており、音楽ライブなども開催されています。

歩いて行くには、少し不便な場所にあります。イベント開催時には、たくさんの人が集まってきて、住民同士で交流する機会が増えました。



## 課題

後継者がいません。興味を持っている人はいますが、グループのメンバーの結束がとても強いため、新しい人が参加しにくい状況になっています。うまく引き継いでいけたらと思っています。

## 夢・抱負・今後の推進方向

地元の人だけでなく、観光で家島を訪れた人が、立ち寄って、心とします場所になってくれれば嬉しい。

団体名：さくら会

氏名：長谷川 とみ子

事務所の所在地：〒672-0102 姫路市家島町宮1161の2

電話：079-325-0145 FAX：079-325-1654

## ノウハウ・コツ

### ④活動資源

#### お金をかけずに手づくり

広場をつくるために必要となった資材は、ほとんど廃材を利用しています。グラウンドを整備するための砂や舞台、休憩所なども、企業等が捨てるものをもらってきて、みんなで一から手作りしました。素人同然のメンバーばかりでしたが、それぞれが得意な分野で力を発揮し、つくりあげていきました。

また、維持・管理に必要な堆肥なども、生ゴミ等を使って作っています。自分たちで手作りした広場だけにとっても愛着を感じます。

### ⑥ネットワークづくり

#### 信頼関係が大事

活動を進めていくなかでは、いろいろなところから援助を受けます。花の苗や資材をいただいたりするだけでなく、工事用の機械をお借りしたりもします。

常日頃から、アンテナを張り巡らして、そういった情報を集めることは、もちろん必要なことですが、ほかに「さくら会が活動に使われるなら・・・」と思ってもらえる信頼関係がなければうまく進めていくことはできません。

今までこつこつとやってきたことが、ようやく周囲にも認知されるようになってきており、その信頼関係を壊さないためにも、冷静になって自分たちを見つめることも忘れずに活動をしていきたいです。

### ⑨活動の展開

#### 楽しくなければ続かない

公園を整備するにも、イベントを開催するにも、何かしようと思うとそれなりに手間もかかり、大変なこともあります。そこで、私たちは、自分たちが楽しむことも忘れずに活動をしています。無理をしないことも大事です。

また、私たちのグループは、同級生とそのパートナーで結成されています。そのため、言いたいことが言い合え、お互いに足りないところを補うことができ、バランスがとれています。パートナー同士と一緒に参加するというのも活動を続けやすいポイントかもしれません。

こういった活動は、つらいことばかりではなかなか続けられませんが、みんなで集まって楽しいこともしながら、息の長い活動を続けていきたいと考えています。



## ひとことメッセージ

家島は、風景や人間関係など、どこをとっても素晴らしいところだと思っています。だからこそ、年を重ねても心地よく暮らせる島にしたいし、なってもらいたい。

家島を出ていった人たちにも、故郷を忘れずにいてほしい。また、島に帰ってくる機会を1回でも増やしてもらいたい。

## 自分たちの村は自分たちで守る

## 活動の概要

長谷地区は、高齢化の進展が早く、また、限界集落も2カ所あることから、老若にかかわらず地区内で支えあっていく必要を強く感じていました。そこに、日常生活を支え、ふれあいと交流の場の拠点であったJA兵庫西のマーケット長谷店とガソリンスタンドの閉鎖により、生活必需品を取扱う店舗がなくなり、高齢者や障害者等の日常生活が大きく変貌することになりました。

そこで、住民が安全・安心な日常生活を営んでいく生活基盤を守るために、住民自らがJA兵庫西に代わり、店舗の経営に取り組むことを決意し、平成20年7月に地区の中心地に食料品をはじめとする生活必需品の販売機能をもつ『村営ふれあいマーケット』と、地域のたまり場となる喫茶コーナーを備えた『ふれあい会館』を新築オープンさせ、地域住民が互いに支え合い生活環境を守る拠点として、住民が一丸となり安心して暮らせる魅力ある地域づくりをスタートさせました（同じ敷地内には同時に村営ふれあいSSも開店）。

## 成果

県民交流広場活動を通して、単位集落を超えた協力、助け合いのもと、活動・交流ができるようになり、ふれあい喫茶だけでなく、地域の農産物を地域の方々に提供するための農産物の即売市（ふれあい市場）も実施し、農家の生産意欲の向上のきっかけにつながったと感じています。また、ふれあいマーケットの運営が、品物の売買だけではなく、人と人とのふれあい、お互いに元気を分け合う憩いの場になってきています。

ふれあい喫茶は8集落の内1つまたは2つの集落が1回分を担当して、20年の10月以降、4月まで7回実施しました。一巡したことで反省会を実施し、21年度の計画を検討してきました。その中で、高齢化が進む中、100人以上のおもてなしを実施するのは大変であるとの話も出ましたが、地域内の皆さんが集まり、交流する成果を大切にしていこうということで、21年度も10月以降に実施することが確認されました。

ふれあい市場を実施したことで、その結果として、マーケットでの試験的な委託販売へとつながっています。安定的な販売体制が確立されれば、生産者の意欲がより向上するのではないかと思います。

## 課題

活動に参加しているボランティアのほとんどが高齢者であり、継続するのが困難になりつつあるというのが現状です。

若い世代に関心を持ってもらい、積極的に活動へ参加してもらえるような取り組みが今後の課題となります。具体的な解決策が現時点で見えているわけではないですが、活動に参加していただいている団体の皆さんとの交流の中から考えていきたいと思っています。

## 夢・抱負・今後の推進方向

少しでも若い人が増え、老若男女を問わず交流し、地域住民が主役となって楽しめるコミュニティづくりを考えながら地域活性化を目指したいです。

はたる祭りなどの地域住民が交流できる企画をどんどん考えていきたい。また、写真展や集落の出来事などを載せたニュースの発行など、情報発信をしていきたいと考えています。

団体名：長谷地区の振興を考える会

氏名：（会長）大森康雄（問い合わせ先 事務局：坂元和代（センター長谷内）

事務所の所在地：神河町長谷 925-2 センター長谷

電話：0790-35-0001 FAX：0790-35-0736

## ノウハウ・コツ

### ③活動場所

#### みんなが集まりやすい場所で

県民交流広場の施設をどこにするか検討し、買い物に来た地域の皆さんが、ちょっと一息つきながら交流できたらいいのではないかと。そういう狙いの中で、最終的に村営マーケットに併設することに決めました。予想通り、買い物客の多くが施設に立ち寄り、地区内外を問わずいろんな方々と話をし、交流することで地域活性化に役立っています。そういう意味では、村営マーケットとの併設はいい結果をもたらしていると思います。

### ⑨活動の展開

#### 協議の成果を実際の活動に！

ふれあい会館の利活用は、地域内の婦人会、ボランティアグループ、地域活動グループに所属する女性の皆様が熱心に協議を重ね、オープニングイベント、1周年イベント、月1回の『ふれあい喫茶』の実施につなげました。また、地域の農産物を地域の皆様に提供していく取り組みとして、ふれあい喫茶と同日に『ふれあい市場』も行ってきました。今年6月にはこれまで町の消費者の会が環境保全の取り組みとして行っていた『ほたる祭り』を、県民交流広場の活動として引き継いで実施しました。



### ⑥ネットワークづくり

#### 女性のパワーをいかして

県民交流広場事業でふれあい喫茶を実施することになり、校区内8集落の女性グループが、月に1回ずつ当番を決めて実施することになりました。しかし、集落規模の大小により、月に1回実施することが難しくなってきたグループもあり、やめたいという声もあがっていました。

しかしながら、ふれあい喫茶を楽しみに待っているお客さんがいることから、大きな集落が小さな集落を助けることにより、月に1回ずつ実施することができました。今後は、地域の若い女性も巻き込んで実施していきたいです。



### ⑧組織運営

#### 協力・助け合いを大切に

長谷地区では、8地区が地区単位で地域づくりを担ってきたこともあり、長谷地区としての一体感を実感する機会が少なかったように思います。しかし県民交流広場活動を通して、集落を超え、協力し、助け合いながら活動と交流をすることが出来るようになったと感じます。とりわけ毎月1回行っている『ふれあい喫茶』は8集落が開催月を分担して実施し、地域内の多くの方々（100～200人）が集まり、交流を深め合う事業となりました。また、それぞれの集落の様子を知らせようと秋祭りや名所の写真展などを行ったことで、さらに交流を促進させたと思います。

## ひとことメッセージ

県民交流広場の活動は、地域を思う気持ちが大切であり、活動をする人が楽しくなければ継続できません。その楽しさが、どんどん地域に広がり、自然と住民が集まり、にぎわった場所になることを期待しています。

「楽しく、仲良く、元気よく」活力あるまちづくり



ムクノキにとまるアオバスキの子

活動の概要

地域住民がより安心・安全に健康で暮らしやすい生活ができるよう、地域の歴史・文化・自然環境の特質を生かし、時代的・地域的課題に対応できる場を持ち、住民の知恵と汗で地域のコミュニティの再生をめざそうと当委員会を設立しました。

委員会には、新宮地区の13自治会、老人会、子ども会、消防団など地域のすべての関係団体が関わっています。

- ①世代間交流の充実を図るために「こころん喫茶」の運営、②地域間・世代間の交流と生きがいくりのために「こころん教室」(パソコン教室、草木め教室、陶芸教室、英会話教室)の開催
- ③情報共有のために季刊誌の発行と全戸配布、④豊かな自然資源とのふれあいを通じ、活域内への緑化を推進するため、市指定文化財「ムクノ・ケヤキ」の保存活動、ムクの木サミットの開催
- ⑤子どもたちの食育と高齢者の孤独解消、家族と地域の絆を深める活動強化として「朝ごはんの集い」等の開催
- ⑥郷土愛を育むため、歴史ウォークのイベント等を開催しています。



ムクとケヤキ

『こころん広場』開設から3年を迎えて

小さいながらも、地域の皆さまが気軽に利用できる交流の拠点、愛称「こころん広場」がオープンして早くも2年が経過しました。大勢の皆さまの御厚意のおかげで、これまで2年間中等な運営を続けていただいております。特に立ち寄って下さる女性から笑顔で話しかけてもらい、コーヒーを飲みながら、家族や仲間と交流、情報交換などしながら、楽しいひと時を過ごせて頂いております。先日、まちづくり協議に参加した時の資料を機に、編集者の皆さまのご協力もご厚意に支え、譲り下りも多いため、何事も継続が許されています。一人でも多くのご縁を結んでいただくことを願っております。

20年度のムクとケヤキの治療工事も終盤を迎えた2月16日、大きく東側に伸びたムクとケヤキの枝が強風で揺蕩する恐れが生じたため、工事の無事と結果の回復を祈願して、関係者による祈事が行われました。この後無事にも伐採され、治療も終了いたしました。

季刊誌「こころん広場」ニュース

成果

「こころん広場」を中心に多くの住民が活用し、まちづくりの輪が拡大、進展しています。また、当委員会の活動開始後、新宮小学校旧校舎のシンボルであった樹齢360年とされるムクノ木の衰退が目立ちはじめ、この木を救おうと「椋の木を守り共に生きる会」が新たに発足しました。地域住民並びに故郷を懐かしむ卒業生の支援も得て、治療工事も始まり、新たな絆と環境保存の機運が高まりました。

課題

ややもすると各種活動への参加が役員や関係者等、一部の人の活動になりがちである。



樹脂で覆い処置をしたムクの枝

夢・抱負・今後の推進方向

県民交流広場の拠点施設「こころん広場」の継続と充実とともに、ボランティアとしての積極的な参加など地域住民の実践の広がりを推進し、支え合い、助け合える地域づくりに努めたい。

団体名：新宮地区まちづくり推進委員会  
 氏名：芳野 俊通  
 事務所の所在地：たつの市新宮町新宮 4 5 6 番地 4  
 電話：0791-75-1264 FAX：0791-75-1264  
 E-mail：jtyxs956@ybb.ne.jp  
 ホームページ：http://www.geocities.co.jp/namu1068/

## ノウハウ・コツ

### ⑧組織運営

#### 「こころん喫茶」のスタッフは100人が交代で

こころん広場では、平日の午前中、100名のボランティアスタッフが20グループに分かれ、交代で地域住民の交流と語らいの場の提供として喫茶を営業しています。20グループが同じレベルのメニュー、サービスを提供できるようになるのは大変なことですが、一部の決まった人が運営するのではなく、13全自治会から派遣されたグループが順に担当することで地域の輪が広がると考え、あえてこの方法を採用しています。約1,600戸ある地域ですが、年間利用者は6,000人になります。目的を達成するために、どう運営するのかを考えることが重要です。



賑わう こころん喫茶

### ⑦行政の活用

#### 県、市を巻き込んだ活動で新たな情報が集まる

昨今、市も地域おこし、元気づくりのためにどのような施策展開をすればよいのかを熱心に考えています。いろいろな活動をしていると市や県から役に立つ情報が届きます。

また、たつの市では、女性だけのコミュニティグループへの支援事業があるので、それを交流広場の取り組みとして取り込んで実施することもあります。地域ビジョン委員となることでいろいろな活動を知り、それがベースとなる情報になり、同時に活動が広がります。

時流を読み、行政の取り組み方向などの動きをうまく活用していくことも重要です。

### ⑨活動の展開

#### 商工会や高校との連携が新たな展開を生む

統合・新設された龍野北高校に声をかけ、食物科の生徒が作ったケーキを「こころん広場」で販売したり、ムクの実を活用した特産品の開発のほか、実業系のムクの伐木を利用した木製品の開発に取り組んでもらっています。

たつの市の商工会は、棕の木を活用した活動に関心を持ち、熱心に支援してくれました。龍野北高校が棕の木の周辺に置くベンチの作成時に材料代を負担、イスづくりのプロの作家を特別講師として同校に5～6回に渡り派遣、棕の木の实を使った特産品開発をするにあたり神戸大学に依頼した棕の木の成分分析費用を負担してくれました。

委員会がアンテナをあげていれば、応援メニューがみつかり、新たな活動に発展していきます。



「こころん教室」(パソコン教室)



ムクの実をみる中学生

### ひとことメッセージ

- ①人材は探せば必ず見つかる。
- ②無理のない地道な活動を！
- ③県、市を巻き込んだ活動で新たな情報が集まる。
- ④地元商工会、県立高校との連携で新たな展開が！

## 住んでよかったと思える街づくり

## 活動の概要

住民、民間、行政がともに助け合い心温まる地域の実現をめざし、「住んでよかったと思えるまちづくり」をしたいと平成 20 年 4 月に「NPO 法人ネットワーク太子の風」を設立しました。メンバーは、定年退職を機に「わが町の新しい風」にと考える主に団塊世代の 17 名から、現在は約 70 名に達しています。活動範囲も当初の太子町内から、近隣の姫路市、たつの市、猪名川町にまで拡大しました。

主な活動は、①地域づくり活動のきっかけとなる「各種セミナーの企画開催、各方面との交流会開催、各種講師の派遣」 ②遊休農地を活用して地域活性化を目指す「さつまいもオーナー事業、貸し農園事業、農園支援事業」 ③子どもの健全育成を支援する「環境美化活動、学校支援の地域コーディネーター派遣」 ④地域助け合いネットワークの構築を目指す「特産品の販売支援、結婚支援サポート」などです。

22 年度は「素人青空市場の開設、こども農塾・アグリセラピー講座の支援」に取り組みます。



きっかけづくり支援セミナー



空き缶ゴミ収集

## 成果

セミナー等に参加することで、地域の人に自分がやりたいことを明確にするきっかけとしてもらえました。メンバー自身の視点が課題を認識しようとするものになってきた。

## 課題

活動資金の確保が課題です。ボランティアのみでは限界があります。また、負担が一定のメンバーに偏らないように、スタッフの増強が必要です。事業に応じた協力者を発掘するため、いろいろな機会に適切と思われる人に声を掛けるようにしています。

## 夢・抱負・今後の推進方向

イベントを通して交流を図り、心の通った町にしたい。

平成 21 年度秋に三世代交流の場として開園した貸し農園“ファーム風の里”を中心に、安心・安全の野菜作り、地産・地消のシステムを構築し、素人青空市場を通じた住民のコミュニケーションを図りたい。

団体名：NPO 法人ネットワーク太子の風

氏名：(代表理事) 丸尾 淳 (副代表理事) 岡部正和

事務所の所在地：兵庫県揖保郡太子町鶴 1 3 2 0 番地サンパーク 2 F

電話： 0 7 9 - 2 7 7 - 3 0 1 1 FAX： 0 7 9 - 2 7 7 - 3 0 1 1

E-mail：moe2221802@yahoo.co.jp

ホームページ：http://www.hyogo-vplaza.jp/event/group\_detail.php?ID=5257

⑨活動の展開

活動によって前が開ける・意識によって前に進める

考えていてもダメで、どんどん前へ進んでいくことです。走り出したら難題が出てきても解決して進んでいくしかないと考えることです。そうすることで協力者から声もかけてもらえます。あきらめなければ、何とかできます。

⑦行政の活用

行政の冠は信用を得るのに非常に有効

活動の位置づけに公的要素を備えると、住民の受け止め方、認識が好意的になります。

当 NPO の最初の事業である「さつまいもオーナー事業」は、太子町から委託されましたが、行政からの委託事業ということでメンバー、住民、地縁組織の不信・不安感が払拭され、積極的な協力につながりました。

NPO 活動の滑り出しとしては上々と言える成果を上げることができました。



さつまいもオーナー収穫祭の様相

⑤広報・情報共有

声かけは効果を考えて

活動のテーマに合わせてどこに声をかけたら参加者を集めるのに効果的かをまず考えて行動しています。

太子町内には 65 のボランティアグループがあり、適宜、声をかけています。例えば、小・中・高の周辺で空き缶・ゴミ収集活動をするときには、実施する地域の周辺の学校にお願いしてチラシを校内に掲示してもらっています。チラシを見た中学生が自主的に参加してくれました。

協力者を求めるときも同様です。貸し農園を運営する時に農業に詳しい人に指導協力を得たいと考え、農園近くの農家の人に声をかけることから始め、新聞・ラジオにとりあげてもらい、いろいろな会合の場で広報するなどしました。



あすかまつり  
出店



野菜づくり  
勉強会

ひとことメッセージ

地域のみなさんから当NPOへの応援は直接的に聞こえて来なくとも、私たちの背中(活動)はみているのを感じます。例えば、賛助会員 13 名が新規加入に、斑鳩寺清掃活動に一般の方が自主参加に、貸し農園整備作業に協力者が現れました。太子の風が吹いているのを実感させてもらいました。井戸知事と対談し、自筆のエールをいただいたことはメンバー一同の誇りであり、励みになっています。

私たちの活動には色々な助成金があります。一度各地の支援センターに出かけてみましょう。ひょうごボランティアプラザにも相談してみましょう。

自分たちでできることからやる！ できるところまでやる！  
(美しいふるさとを守るために)

## 活動の概要

佐用町大垣内地区は、世帯数 37、住民数 110 人のうち 60 歳以上が半数を超える地域です。限界集落への危機感を持ち、自治会が中心となって都市との交流や集落の活性化に取り組んでいます。

高齢化が進むなか過疎化を心配し、これからの村づくりをどうするのかを考え、平成 17 年に「美しいむらづくり計画」を策定して元気な村づくり活動を始めました。村の宝物（ホテル、あじさい等）をピックアップし、この地域資源の保存に重点を置いて情報発信や交流事業を進めてきました。

これまでの取り組みとしては、あじさいまつりの開催、のじぎくの植栽普及、集落広場の整備、ホテルが生息する幕山川環境保護、「村の宝物」の看板作成、景観樹木のライトアップ、こんにやくづくり講習会、健康づくりスポーツ講習会活動などです。交流を含めた事業では周辺地域の小学生や集落外の住民とも協働しています。

当地域は平成 21 年 8 月の集中豪雨で甚大な被害を受けましたが、これまでの村づくりの取り組みを生かして防災にも取り組んでいます。

## 成果

村全体に集落活動への参加意欲が高まりました。当初から「できる範囲で取り組む」自主活動でしたが、様々な手法を用いることにより色々な年代層の住民が積極的に活動に参加できるようになりました。特に、数少ない若い世代が活動に参加している光景はこれまでになかった大きな変化です。



出前環境学習会

## 課題

増加傾向にある高齢者や一人暮らし世帯の暮らしを支えるため、防犯・防災、健康づくり、ふれあいなど生活共助活動に取り組む必要があります。

将来的には集落単独での自治活動が困難となるため、周辺集落との連携を視野に入れた広域的な取り組みが必要となってきます。地元小学校区内(10 集落)で地域づくり組織を立ち上げての取り組みにも積極的に参加しています。

## 夢・抱負・今後の推進方向

「美しいふるさとで心豊かに老いていくこと」を願い、「美しいふるさと大垣内」を少しでも長く後世に伝えていくため、現在の活動を展開しています。「できることからやる」「できるところまでやる」の方針どおり頑張りたい。

団体名：大垣内自治会

氏名：(自治会長) 上山 晴 (担当) 石堂 基

事務所の所在地：佐用郡佐用町大垣内 7 4 3 - 1

電話：0 7 9 0 - 8 7 - 0 4 4 9

FAX：0 7 9 0 - 8 7 - 0 4 4 9

E-mail：ishidou1202@hm.h555.net

⑨活動の展開

目に見える事業から始める

看板製作やライトアップ事業など、多くの活動は集落内で目に見えるものです。住民が目にすることで集落の宝物への認識が高まります。新たにアイデアが出てきた「村のモニュメントづくり」等もこうした取り組み成果の表れの一つだと思っています。

景観面でも地先管理（じさきかんり：所有地以外でも所有地周辺については、草刈り等を積極的に行うこと）ができていくだけでなく、道路河川用地なども自主的・積極的に草刈りをし、景観管理が行われるようになってきたなど大きな効果が出ています。

⑤広報・情報共有

イベント開催ごとに全戸に周知

イベントごとにチラシを作って全戸配布し、積極的な呼びかけをしています。若い世代にも参加を呼びかけることが功を奏し、若い人の参加が進んでいます。また、活動の内容を知らせる新聞「元気な村づくり通信」も発行し、集落全員に情報提供をしています。

⑧組織運営

機動的な活動グループの設置

対外的には自治会が中心となった活動としていますが、実働部隊は「大垣内元気な村づくり隊」等のグループを中心に、柔軟な運営で活動を展開しています。事業ごとに「元気な村づくりグループ」「女性グループ」など類似のグループが取り組めますが、グループ別に活動内容は特定していません。実体的に各グループのメンバーは重なっており、活動主体をあえて曖昧模糊にすることでメンバーは気楽に参加でき、それが非常にうまく機能しています。

⑨活動の展開

農繁期や冠婚葬祭などを考慮した活動進捗を

年度当初に集落内の現地調査を行いあらかじめ年度計画を策定しますが、実施時期など具体的な内容については、毎月定例スタッフ会で活動状況を検討し、農作業の時期や冠婚葬祭の状況も考慮して活動を進めるように心がけています。地域の特徴を踏まえた活動進行とし、活動の基本方針どおり、あまり背伸びをしないで「自分たちでできることから」「みんなでやる」ことが大切だと考えているからです。



左：「村の宝物」  
看板製作風景  
右：村のモニュメント  
づくり風景

ひとことメッセージ

私たちの集落は高齢化に直面しています。団塊世代が中心となっただろうじて活力を維持していますが、それも長くはないと考えています。自らの生活はもとより、周辺農地や景観保全には限界が見えてくるのではないのでしょうか。こうした現状を少しでも改善するために、私たちは活動を続けようと考えています。

「いつでも誰でも」  
老若男女、地区居住にかかわらず来て下さいとの気持ち

## 活動の概要

高齢化率の高い当地区（40%）において、閉じこもりやすい高齢者の生きがいつくりと交流の機会づくりを目的として、地域の中心に位置し、毎日訪れる場所である「コープ店舗の空きスペース（あいあいひろば相生館）」と「空き店舗（あいあいひろばおお）」の2カ所に広場を整備し、気軽におしゃべりできる場を提供しています。

その他、地区まちかどギャラリーとして、地域住民が制作した絵画や陶芸、工芸品などの展示を行っているほか、七夕祭りや相生懐古いろはかるた大会など子ども向けの事業、認知症勉強会などの講演会を行っています。

また、市内の看護学校の学生との交流会を月2回程度開催し、若者と高齢者が交流できる機会を作っています。



## 成果

活動開始当初は高齢者の利用を想定していましたが、子どもたちも訪れるようになり、地域の高齢者や子どもたちが日常的に交流を持たれ、自然に世代間交流が図られるようになりました。

子どもを通じて、学校・幼稚園との連携が密になりました。地域の方からは作品や資料を提供していただいたり、備品として使える品物をいただいて助けてもらっています。

## 課題

高齢者の活性化と共助は重要な課題と考えています。そのため、県民交流広場を「コミュニティの場」として地域情報の発信と交換、閉じこもり防止などに今以上に役立てる必要があると感じています。

## 夢・抱負・今後の推進方向

活動を通じて、住民どうしの対話が活発になり、地区の課題を住民自身が自覚し、主体的に解決しようとする地域になるようにしたいと考えています。

より多くの人に利用していただき、地域の課題に取り組む人が集う場としたいです。

団体名：相生地区まちづくり協議会

氏名：長谷川 和正

事務所の所在地：相生市旭 1-19-33（相生市市民福祉部まちづくり推進室）

電話：0791-23-7130（相生市市民福祉部まちづくり推進室）

FAX：0791-23-7137（相生市市民福祉部まちづくり推進室）

E-mail：oh\_machikyo@maia.eonet.ne.jp

ホームページ：http://www.eonet.ne.jp/~oh001/

## ノウハウ・コツ

### ②活動資金

#### 無料化や減額などの交渉を！

利便性を考慮し、地域の中心部にあることを最優先しました。通りがかりに立ち寄りやすいよう、コープ店内のコーナー（あいあいひろば相生館）、通りに面した空き店舗（あいあいひろばおお）を選定しました。

いずれの場所も共益費や家賃などの固定費がかかっており、今後の継続に際して、無料化や家賃減額の交渉を行いつつあります。

### ①人材養成

#### 団塊の世代や女性の参加を！

特定の人に任せっきりにならないように、団塊の世代の取り込みや女性の参加を促しています。

また、地域内にいる絵の得意な人、工芸の得意な人等を発掘し、その人たちの作品の展示を行うようにしています。地域内に住む尺八の得意な人が、毎週1回定期演奏して下さり、賑やかです。このような取り組みが、住民たちの生きがいがづくりや住民間の交流につながっていくと考えています。

### ④活動資源

#### 必要なものは自分たちで作成しよう！

広場活動で必要となる備品は、できるだけお金をかけず不用品などから集めるようにしています。また、地域の人々の得意技を活用し、自分たちでやれることは自分たちでしています（移動座敷づくり、ふすま貼り、ソーメン流しの樋製作など）。



### ひとことメッセージ

お年寄りにもっと参加してもらうため、意見を聞き、健康器具（血圧計、フットマッサージャ）を置いたりしています。

地域に関する資料・写真などを収集して一部公開しています。特に、お祭りの集合写真は、大正時代から写しており、これらを複写プリントしてファイルに入れて閲覧できるようにしています。知っている顔も多く、地域の歴史が分かります。

～薬王寺のすばらしさをみんなで認め合おう  
みんなで笑顔！ 笑顔で元気！ ～

活動の概要

薬王寺地区は円山川の最上流、豊岡市の北東、福知山市との府県境、舞鶴若狭自動車道福知山 IC から 20 分程度に位置します。福知山市と豊岡市を結ぶ国道 426 号が通る薬王寺は 49 世帯、125 人が暮らすのどかな農村集落です。

集落内の府県境に位置する江笠山（標高 727m）は、登山口から 40 分程度で登頂できる手軽な山で薬王寺のシンボルです。薬王寺ふるさと委員会が中心となり、登山道を整備。山頂や登山道入り口に看板を取り付け、登山者への PR を呼びかけています。

牛や馬の神様を祭る大生部兵主（おおいくべひょうす）神社では、五穀豊穰、家内安全を祈る春の大祭が行われ、小中学生の巫女による神楽や練り込み太鼓など集落総出で盛り上げています。

また、平成 16 年には地元農産物等の販売拠点「農産物直売所 旬の里のぼりお」を国道沿いに建設。地域の新鮮野菜、花卉、加工品などを販売し、地域活性化を図っています。

成果

平成 20 年から、県が進める「小規模集落元気作戦」のモデル地区に指定され、アドバイザーの指導のもと、ワークショップを行っています。都市住民との交流により、恒例の「花見の会」は音楽会、似顔絵コーナー、童謡タイム、もちつきなどユニークな趣向となり、これまでにない盛り上がりで、地元住民の参加も多く、なごやかで楽しい宴となりました。



都市住民との花見交流会

課題

都市との交流により集落内に活気が芽生えてきましたが、従来からの恒例行事や共同作業などもある中、役員の負担が増加傾向にあります。県のモデル事業終了後の継続的な活動のためには経費面での負担も懸念され、自主財源確保の方策が急務です。

夢・抱負・今後の推進方向

住民全員が交流事業の取り組みを理解し、活動できる有志で「ふるさと委員会」を再構築し、自主運営できるしくみづくりが必要と考えます。コミュニティビジネスなどを取り入れ、暮らしがいのある集落を目指したいです。

また、Uターンなどにより、若者や子どもが増えて、将来的にも持続可能な元気集落になることが私たちの『夢』です。

団体名： 豊岡市但東町薬王寺区

代表者氏名：（区長）太田啓一（おおた けいいち）

事務所の所在地：兵庫県豊岡市但東町薬王寺 2 7 5

電話：0 7 9 6—5 5—0 9 9 1

FAX：0 7 9 6—5 5—0 9 9 1

ホームページ：http://egasa.blog10.fc2.com/

## ノウハウ・コツ

### ④活動資源

### 豊富な地域資源を最大限に活用

薬王寺は、大生部兵主神社、江笠山、農産物直売所や有休農地、空き家など活用できる資源が豊富な集落です。今月、神戸市立王子動物園からの依頼により、猿園舎の遊び場補修のために、地元産の桧の木材を提供しました。また、休耕田を活用してモロコの養殖に取り組まれている住民や地元産のコシヒカリを活用した米粉シフォンケーキを発表した女性、そばの収穫・そば打ち体験交流に取り組むグループなど、地域資源を活かした活動を行っています。



秋の農村体験交流

### ⑤広報・情報共有

### 機関誌の全戸配布による情報の共有

小規模集落元気作戦に取り組んでから「薬王寺元気だより」A3両面カラー印刷を発行しています。ワークショップの内容、イベント開催、都市部での販売活動などの情報を載せ、参加できなかった住民への情報発信に努めています。

機関誌により、話し合いの内容や活動情報が広報されることで住民の意識が共有され、住民同士の話題も豊富になりました。また、インターネットによるブログも昨年からは始まり、薬王寺情報を積極的に配信しています。



薬王寺元気だより

### ⑨活動の展開

### 都市部への販売促進で情報をキャッチ

交流促進のため、都市部へのイベント参加を積極的に行っています。農産物直売所の新鮮野菜や加工品を持参し、販売促進を行っていますが、都市住民との会話や情報交換により、都市住民のニーズを把握することができ、次回はもっと喜ばれる素材を提供しようと研究意欲が高まっています。揃いのジャンパーも整い、これからが本格的な市場開拓の本番です。円山川の源流で安全安心に育てた農産物は人気が高く、販売開始後すぐに売り切れる品物もあり、うれしい悲鳴をあげています。



芦屋でのイベントへの参加

## ひとことメッセージ

情報の受発信が必要です。発信することにより多くの情報が入手できます。

ブログ江笠山 <http://egasa.blog10.fc2.com/> (薬王寺情報)

高橋振興対策協議会ブログ [http://blogs.yahoo.co.jp/frontier\\_fy](http://blogs.yahoo.co.jp/frontier_fy) (高橋地域情報)

## 背伸びをしないで自分たちでできるむらづくり

## 活動の概要

岩崎地区は、養父市の北東部、豊岡市(旧出石町)との市境に位置する山間集落です。昭和30年頃まで世帯数45世帯、人口150人を有し、農林業を中心に栄えた地区でしたが、経済成長期に入ると地区外へ移住する住民が増え、過疎化と少子高齢化が深刻になり、集落機能の低下が顕著になってきました。

こうした現状に平成7年頃から地区の有志が、土地利用、景観形成、コミュニティ育成を柱として、かつての集落の賑わいと「和」を取り戻すため、「何をしても自分たちが楽しむ」「背伸びをしないで自分たちのできることをやる」を基本としてむらづくりを始めました。

住民自らが「むらづくり」を考え、実行する組織として、自治会とは別に'03年度に「岩崎むらづくり委員会」を立ち上げ、運営しています。これまでに伝統行事「八朔祭り」の復活、住民参加の森づくり事業、村の名物である椎の木の巨木を生かした公園整備、自然薯を生かした「とろろ麦飯」などの特産品開発などに取り組みました。

また、都市との交流では、神戸市東灘区や長田区のまちづくり協議会等と交流し、椎の木まつりや都市部での特産品の販売「じげのもん市」の開催、都市住民と協働して「円座塾」(交流施設や特産品の加工所を備えた交流拠点)の建設などにも着手しています。

## 成果

ユニークな活動が評価され、'07年度の国の「豊かなむらづくり全国表彰」で近畿農政局長賞を受賞しました。

## 課題

世帯数23世帯、住民69名の小さな集落なので、短期間で完結しなければならない事業はなかなか難しいのが現状です。

## 夢・抱負・今後の推進方向

むらづくりの発想の幅を広げます。例えば、むらづくり委員会がかねてから検討する事項である日常生活の不便さを解消する「高齢者の買い物」や「高齢者の病院通い」等の足(交通)の問題、高齢者世帯の緊急時対応等について考えていきます。



復活した八朔祭り



ワークショップ

団体名： 岩崎村<sup>いわさ</sup>づくり委員会

代表者氏名：(会長) 上谷俊道 (かみや としみち)

事務所の所在地：兵庫県養父市八鹿町岩崎148

電話： 079-662-1188

## ノウハウ・コツ

### ①人材養成

### 女性、若者の村づくり活動への参画

どこの集落でもそうですが、伝統的に戸主が自治会の構成メンバーであり、女性や若い世代は自治会等の運営に参画する機会がほとんどありませんでした。

当会では、「椎の木公園祭り」開催時の食事等の準備や、地区内の美化運動の中心である花づくり部会「しいのみグループ」は女性が主体となって活動しています。この女性会は、村づくりのために半年かけて立ち上げ、総会で議決された組織です。

また、当会の活動が始まって5年が経過し、ようやく若い世代が自主的に若者会を立ち上げ、活動を始めています。

その他にも、地区を八つのゾーンに分けて、将来の活用方法を検討する土地利用構想をワークショップの手法で行うなど、さまざまな機会をとらえて、多くの住民の意見を集約する工夫をしています。

### ⑥ネットワークづくり

### 都市住民等との交流範囲の拡大

岩崎地区で収穫した農林産物を地元のイベント会場などで「じげのもん市」と銘打って販売しています。地元だけでなく神戸市など交流のある地域のイベントにも出店し、毎年盛況となっています。都市との交流を、単に都市住民を招くということにとどまらず、農林産物の販路の拡大など流通面での取り組みに拡大しようとしています。



住吉呉田(東灘区)での「じげのもん市」

### ④活動資源

### 地域資源を有効に活用

当地区は中山間地域ということもあり、鹿による農産物の食害が深刻となっていますが、捕獲した鹿の肉を使ったソーセージの特産品開発も進めています。

また、地区の豊かな森林を活用して、シンボリック存在の椎の木を中心とした公園やビオトープを整備し、「椎の木公園祭り」を開催しています。また、大学生や専門学校生とともに間伐材を切り出し、活動の拠点となる作業小屋づくりも行っています。



学生と共同での森林の間伐作業(上)と自力で作った小屋(下)



岩崎のシンボル、椎の木の巨木



椎の木公園祭り

### ひとことメッセージ

何をするにしても、「目的は和づくり、人づくり」をモットーに。自分たちが楽しんでいく村づくりの活動を、これからも行います。

～自分たちのまちは自分たちで～  
「好きです ふる里 よふど 創ります 未来の よふど」

活動の概要

少子高齢化がもたらす地域課題は年々増加、複雑化し、一つの集落のみでは解決できなくなってきました。また、分権型社会が進む中で、行政の財政状況は厳しく、従来のように行政に頼ってばかりの地域づくりでは機能しなくなっています。

そのようななか、自分たちの住む地域を誰もが住みやすい魅力ある地域にし、子どもたちに誇れるかたちでつないでいくことは、私たちの責任であると地域住民が共通認識し、地域内で協力し、地域課題を解決していこうと平成19年6月に与布土地域自治協議会を設立しました。

以降、与布土地域内の全集落と各種団体等が互いに連携をとりながら、地域課題の解決と魅力ある与布土づくりに子どもから高齢者まで地域住民が一丸となり取り組んでいます。

活動は、環境保全、地域資源を活かした産業振興、子育て、伝統文化の継承等、地域課題の各種分野にわたっています。

成果

同協議会が発足し、これまでは発言や活躍ができなかった女性や若者をはじめ、誰もが地域活動に参加しやすい雰囲気が醸成され、さまざまな形で参加が進み、地域ニーズに応じた活動が展開されています。

活動への参加は自己実現やノウハウが還元される生涯学習の場となっています。



企画書づくり

課題

活動の幅が広がり、様々な人や団体が携わっているため、今後の安定的な運営のためには、活動全体をコーディネートできる事務局機能の充実が欠かせない。

また、無償ボランティアにも限界があり、持続的な事業展開のためにも自主財源の確保が必至である。

夢・抱負・今後の推進方向

地域内のあらゆる地域課題を行政に頼らず解決していく地域のもう一つの役場として、自律した地域経営ができる地域自治協議会をめざしています。

地域課題の解決と自主財源の確保ができるコミュニティビジネスを確立し、人も地域も元気に活力あふれる地域としたい。

地産地消と都市との交流を推進するためオープンさせたローカルレストラン「百笑茶屋 喜古里」を拠点に来客者と地域をつなぎ、与布土ファンを増やし、元気な与布土づくりを進めたい。

団体名：与布土地域自治協議会

代表者氏名：(会長) 細見 守

(事務局) 高橋 直也

事務所の所在地：兵庫県朝来市山東町溝黒 360

電話：079-676-3030

FAX：079-676-3030

E-mail：yofudo-jichikyouto@asago-net.jp

ホームページ：http://www.asago-net.jp/yofudo-jichikyouto

## ノウハウ・コツ

### ①人材養成

#### 誰でも、いつでも活動に参加できるしくみに

協議会設立当初、協議会活動の企画立案を担う事業部会（6つ）の部会員は、地域内の各種団体の連携の必要性から、選出されたメンバーを中心に構成にし、地域づくりに携わる人が限られていました。しかし、協議会活動を開かれた活動にするために、誰でもいつでも部会員となり活動に参加できるようにしました。集落やグループ・団体等、人と人とのつながりから部会員として参加する人が増えました。

組織のオープンなイメージづくりと合わせて、得意分野や興味ある分野に少しずつでも携わっていくそれぞれの参加スタイルを認めあうことも必要です。

### ①人材養成

#### モチベーションの醸成・維持

何らかの形で地域に貢献していきたいという人は多い。

その人たちの士気を高め、主体的に地域づくりに携わってもらうためには、それぞれが持っている力・ノウハウを互いに必要と感じ、互いに認め合うことです。一人ひとりの存在価値（必要性）を見出すことにつながり、頼りにされることでそれぞれの意欲向上へつながっていきます。

### ⑧組織運営

#### 開かれた組織運営と役割分担

かつて区長会がすべて合意形成をやっていましたが、協議会ができ、女性や若い世代が参加し、いろいろな意見が出るようになりました。それら参加者からは、自分たちの意見を吸い上げてもらえると評価が高まっています。意見の違いを認め合い、除外しないことが重要です。本協議会でも当初は世代間の価値観の違いに苛立ち（いらだち）を感じる年配者もいましたが、「若い世代を育てる」という姿勢に変更し、若い世代に委ね、同時に、責任の所在を明らかにしたことで若い世代が主体的に活動するようになりました。



パソコン講習会



心肺蘇生法講習会



環境学習会

### ひとことメッセージ

がんばる地域には、100%補助も含め、いくらでも国・県等の補助事業があります。各種補助事業を有効に活用していくためには、地域（団体）のビジョンを明確にし、共有することが重要です。地域づくりの羅針盤となる「与布土地域まちづくり計画」を策定していますが、計画に基づいて財政計画が立てられ、少ない労力で必要な時期に必要な補助事業を申請することができます。

また、この計画に基づき全住民が同じ目標に向かって地域づくりをすすめていくことができます。

地域を盛り上げるため、自分たちのできることをやっいてこう！

### 活動の概要

「地域を盛り上げるため、自分たちのできることを探して行動しよう」を合言葉に、旧生野町内の地区青年会や行政職員の若手、商工会の若手有志が中心となり、「鉾山町の歴史」や「僕たちのあの頃」をキーワードとした地域活性化集客イベントを周辺住民と協力して企画・実施しています。

参加メンバーは現在 20 代から 40 代を中心に約 30 名で、趣旨に賛同できるのであればだれでも参加でき、それぞれ個人が自分の属する団体との連絡係となって、いろいろな団体との連携を深めながら活動しています。

活動としては、①生野の活力発信基地となるよう町内の空き店舗を活用したチャレンジショップ「あるじゃん(フランス語で金属の「銀」の意味)」の運営 ②JR 播但線の全通開通 100 周年を機に、鉄道をキーワードに旧生野駅前通りが鉾山関係の物流や人の交流の拠点だった頃を再現した「銀谷ぽっぽ祭り」の開催 ③鉾山町としての生活・文化を後世に伝えるきっかけとなるようにと始めた「銀谷かいわ祭り」の開催など、子どもから大人まで参加できる行事を実施しています。

### 成果

地域資源の掘り起こしのために「銀谷ぽっぽ祭り」「銀谷かいわ祭り」などの地域活性化集客イベントを実施することで、今まで地域に無関心だった若者に地域のことが見えてきて、「今度こんなことをみんなやってみよう！」という動きにつながってきました。



### 課題

メンバーが地域のすべての団体に所属していないので、地域の情報共有ができていない。今後、若い新規メンバーにいかに関わり加入してもらおうかが課題となっています。

### 夢・抱負・今後の推進方向

歴史や生活文化が色濃く残る地域を印象づける情報発信をするとともに、温かいおもてなしの向上などで、また来たくなる地域にしたい。

今後は地域の情報を共有するとともに、地域の力を結集して地域をマネジメントできるしくみを整備できればと考えています。

団体名：生野もりあげ隊

代表者氏名：(会長) 井上 亮 (問い合わせは渉外広報担当) 三浦 健太

事務所の所在地：兵庫県朝来市生野町口銀谷 5 1 2 (生野町商工会内)

電話：0 7 9 - 6 7 9 - 2 2 3 3 (代表) FAX：0 7 9 - 6 7 9 - 2 5 8 5

E-mail：ikusho-2@helen.ocn.ne.jp (生野もりあげ隊 三浦)

ホームページ：http://moriagetai.ath.cx/

## ノウハウ・コツ

### ①人材養成

### 100の理論よりも行動！

決して無理をせず自分たちができることにコツコツと取り組んでいます。各メンバーが思いついた企画は、小さなことでもメンバー全員でサポートしてできるだけ実現させます。そうすることで提案者に自信をつけてもらいます。

やってみてダメなら後戻りして修正し、翌年度にバージョンアップして実施するなど、こうしないといけないというガチガチの枠組みではやりません。それではしんどくなってしまうので、できることをみんなで少しずつ積み上げていくようにしています。

また、4～5人の若い女性たちが、メンバー予備軍として行事を開催するときなどにスポット的に参加して手伝ってくれるので、機会があるごとに声かけをしています。

### ⑥ネットワークづくり

### 積極的に交流を

丹波の「食べてん会」、神戸市須磨区の「須磨を西海岸化し隊」、神戸市長田区の「下町レトロに首っ丈の会」など、他の地域で活動されている団体などと積極的に交流をはかり、地域の活性化について意見交換をしています。そうすることで新たなネットワークを築き、新たな発見を得ることができます。

また、「M-1（むらわん）グランプリ」は交流が広がるきっかけとなっています。

### ⑨活動の展開

### ワザを“盗む”

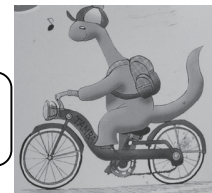
商工会とのつながりで知った他府県の地域おこしの取り組みを視察に行った時のほか、依頼を受けてイベントに出店した機会、たまたま遊びに行った時などにも、イベントの中でどんなことをしているのか、ワザ、ノウハウなどを積極的に“盗む”ようにしています。持ち帰ったそういったワザなどは早速、主催するイベントに反映して、自分たちのものになるようにしています。



高知県で他団体との交流

## ひとことメッセージ

地域の魅力や課題は地域に住む人が一番知っていると思います。その地域の住民で、その資源や現状を認識して地域を良くしていこうという取り組みが重要だと思います。



### 活動の概要

丹波市内で最も少子高齢化が進み、医療や買い物など実生活面での不便さと生気に欠けた地域に活力ある生活環境を取り戻したいと考えていたところ、平成18年に地元の約1億4千万年前の地層から丹波竜の化石を発見したことから、千載一遇のチャンス！と発見された化石を活かして地域の活性化を図ろうとしたのがきっかけです。

まち(里)づくり活動のメンバーは、まちづくりや地域の将来像に関心のある有志の集まりで現在25人。毎月第2土曜日を定例会議と定め、地域住民にも自由参加を呼びかけ、活動拠点としているかみくげ地域づくりセンターは常に開放しています。

間伐材を使って丹波竜等身大モニュメントの作成、来訪者向けの活動拠点施設(約70㎡)を間伐材で設置し、地元農野菜やグッズの販売、食の提供、各種体験コースの実施を可能とした。活動状況や地域情報を共有するために恐竜の里新聞を毎月発行、駅から現場まで1.8km間に恐竜親子の足跡アートの作成等に取り組んでいます。

### 成果

ホームページによるPR効果で市内外から来訪者が増えています(累計75,000人)。

活動拠点での農産物の販売や子どもたちの化石発掘体験などへの訪問受け入れを通じて、地域内住民にも交流の機会が増え、まちづくりへの関心が高まってきました。

地域内住民間の会話が増え、つながりが強固になってきています。



化石発掘

### 課題

新しい企画を考え、実践する活動に参加するメンバーは限られ、個人の負担が大きくなっています。ボランティアを広く求めています。若い年齢層(40~60歳)の参加は少ない状況です。活動の量を減らすか参加者を増やす努力をするかの選択に直面しています。



地元の間伐材で製作した恐竜の等身大モニュメント

### 夢・抱負・今後の推進方向

販売活動拠点で収益性を確保し、経済的に自立した活動に力をいれたい。来訪者の滞在時間を中・長時間型へ変える整備をしながら、いつも元気なお年寄りや子どもたちの声が聞こえる元気なまち(「元気村かみくげ」と命名)をめざしたい。

来訪者が年中途切れないように地域資源を利用した体験コース(化石発掘体験、カヌー・カヤック体験、幼児向け化石発見体験、里山体験、林間学校、地域産品収穫祭など)を多く準備したい。

団体名：かみくげ恐竜の里づくり協議会

代表者氏名：会長 酒井将瑞 (かみくげ地域づくりセンター活動推進員 村上茂)

事務所の所在地：丹波市山南町下滝205

電話：0795-78-0001

FAX：0795-78-0819

E-mail：s-murakami-kamikuge@friend.ocn.ne.jp

ホームページ：www.kamikuge.com/

## ノウハウ・コツ

### ②活動資金

### 受け入れ体制を整えてから積極的に助成金獲得を

自治会活動の中でまちづくりに取り組むには、どこの自治会も資金は不足しています。そこで、国や県が支援する制度に情報網を広く張り、積極的に助成金等の獲得をめざすことが重要です。また、活動をすればするほど、市や県からの助成金等の募集情報の提供も増えます。

ただし、むやみやたらに補助金等を獲得しても、受け入れの態勢が整っていないとかえって苦痛の材料となり、時にはメンバー間での摩擦の原因ともなりかねません。メンバー間でどのような事業をどのように展開するのかを十分に協議したうえで申請することが大事です。

### ④活動資源

### 活用できる資源はどこにでもあ

まちづくり活動に活用できる資源は地域のどこにでもあります。チームをつかって今一度、足元に存在する資源の再発掘を試みれば、意外な資源に気がつきます。

当地でも寺院・仏閣、名所、旧跡、遺跡など 80 数カ所が村の歴史の記録に残っていました。そのまま使えるもの、手を加えれば活用できるもの、活用できないものにランク分けしたところ、見方を変えれば地域資源としてまちづくりに役立つものが 20 カ所ありました。その中から訪問者に紹介する値打ちのあるものとして 10 カ所を厳選し、活動の中で活用しています。

### ⑤広報・情報共有

### 定期的な情報発信が地域活動への関心を増す

里づくり新聞やホームページからの情報発信は、定着するのに若干の時間が必要ですが、定期的な発信・更新することが大事です。

地域住民は一般紙の地方欄記事より地域内新聞を注視しています。昔と違って、田舎社会にあっても、地域内のできごとが手に取るほどにわかることはなく、情報化が進むなかで、入手手段も IT 化され、年配者はついていけません。地域内新聞は情報をやさしく伝える手段として最適だと思われます。

一方、ホームページは情報を広く、早く伝える効果があり、都会に出た地域出身者がふるさとを思う機会を増やす効果を感じます。



### ひとつことメッセージ

まちづくり、ひとつづくり、メンバーとの意思疎通には根気が必要。人にはそれぞれの考え方があり、まちづくりに参加する年代に柔軟性を期待するのは難しい。お互いに尊敬しあう気持ちを持つことが、まちづくりをうまく進めるポイントだと考えます。

## 世代間交流を通じた地域づくり（中野元気村！）

## 活動の概要

中野は、戸数 23 戸の小さな集落です。多くの若者が村に戻ってきていますが、村の活性化や住みやすい村づくりといったことにはあまり関心が強くありません。一方、高齢者は多く、その知恵や経験等はすばらしい財産ですが、それらが村の活性化に生かされる機会は少なく、村全体に元気がありませんでした。

そこで、祭りや特産品開発、公園づくりなど、世代を超え、日常生活のふれあいや共同の活動、共通の経験を通して、お互いの連帯感、共同意識、信頼関係を築きながら、自分たちが住んでいる地域をみんなの力で元気づける地域コミュニティづくりをめざそうと活動を始めました。

グループや個人が実施する地域おこしの活動には、審査のうえ、自治会費から 1 件 3 万円の助成をしました。特産品の開発は、高齢者をまきこむところから始めた漬物づくり、地元の農産物を使ったお菓子づくりなど、いろいろな人が自主的に取り組んでいます。また、子どもから高齢者まで集える場として、長期展望に立った中野区総公園化構想に取り組んでいます。

## 成果

中野区外で暮らしていた若者が数多く戻って来たり、新たに移り住んで来る世帯も出てきました。子どもの数も増え、村自体に活気が戻ってきました。

また、日常の場面で住民同士の会話が増え、お互いの村づくりへの考え方やこれからの夢を語り合う基礎づくりや世代間交流ができています。

## 課題

地域づくりの基礎を作ることができたので、地域団体活動パワーアップ事業で獲得した地域コミュニティづくりの基本的なノウハウを生かしながら、育ちつつあるお互いの連帯感や共同意識、信頼関係をより強固にし、自分たちが住んでいる地域は、自分たちの手で元気づけるべきだという思いを継続し、解決を図りたいと考えています。

## 夢・抱負・今後の推進方向

コミュニティづくりへの意識を定着させるとともに、若い世代にうまくバトンタッチし、高齢者は応援に回るような形をめざしたいと考えています。

地域づくりの活動は無償ボランティアでは続かないので、収益をあげ、活動資金が調達できるようにしくみをつくりたいと考えています。

団体名：中野区

代表者：稲継 敏充、岸田 隆博

事務所の所在地：〒669-3623 丹波市氷上町中野 2 6 9

電話：0795-82-3022

E-mail：t.kishida@nifty.com



⑨活動の展開

長期展望に立った継続性を大事にする

将来の夢を共有することが大切です。計画性・方向性を持たない活動は継続しません。単年度の取り組みではなく、長期展望に立った取り組みが重要です。中野においては、「中野区総公園化構想」をテーマに、今後3年間の計画を立てて推進しています。

①人材養成

若者中心の企画・運営を高齢者がバックアップ（役割分担を明確に）

若者を中心に企画・運営を行い、その思いを形にするために高齢者一人ひとりが、自分の持っている知恵や経験を伝え、一緒に取り組む体制づくりに努めています。そのために、計画段階から若者と高齢者が互いに積極的に加わるようにし、役割分担を明確にしながら、ともに協力して働くようにしています。

⑨活動の展開

一步踏み出すリスクの方が、踏み出さないリスクより小さい

商工会からイベントに地元の特産品を出さないかと声がかかり、畑でとれたラッキョウやキュウリの漬物を作りました。氷上地域の業者から機械を借りて真空パックにし、中野区のオリジナルラベルを貼って販売したところ完売しました。

高齢者の活動グループである「寿会」が餅つき大会をしようとして提案した時に、婦人会が料理を作ることを申し出、こども会、PTAも参加して大いに盛りあがりしました。参加した若い人から新たに企画を出したいとの声が聞かれます。

例え一歩でもまず踏み出すことが大切です。住民が地域おこしの楽しさに気づきます。楽しさや成功の体験が次の活動につながります。



東屋づくり

ひとことメッセージ

- デメリットは村づくりのチャンスです。
- インターネットを利用したり、同じ志を持った人からの情報を入手したり、各種助成金の情報収集に常日頃心掛けています。
- 各種助成金の審査会を聞きに行ったり、県広報紙などから参画と協働に関する記事を読んだりして、今求められている村づくりの方向性、ノウハウを培っています。
- 助成金申請書の書き方やプレゼンテーションの仕方など、ノウハウを持っている区民が積極的に若い人に教えて、次世代に繋がるよう人材育成に取り組んでいます。

宿場街道を明るく照らして地域と心の活性を！

活動の概要

篠山市の波賀野新田地区は、JR古市駅に近く、国道が交差する交通の要衝として古くから旅館や商店が並ぶ宿場町でしたが、近年、若者は就職のため家を離れ、少子高齢化も進み、活気のない状態でした。

同じ街道筋の隣接自治会（古市）でも同様の課題を抱えていて、沈滞ぎみだった地蔵盆を協働で盛り上げてみようということとなり、当地区では児童たちの夏休み最後の思い出となるイベントにしようと「竹の灯りづくり」に住民全員で取り組みました。

隣接自治会（古市）では、「風鈴づくり」や「絵はがき作成」、「まちかどギャラリーの開催」等に取り組み、お互いの事業に参加し合うことで自治会間の交流を進めました。

成果

街道筋を照らす提灯のほかに大きな灯りのモニュメントを飾ることができ、他地域の住民や帰省してきた住民にも大変好評でした。

住民が作った灯りは、それぞれの自宅前の道筋にレイアウトして飾ることになっていますが、高齢者だけでは作業が困難なため、若い人が手伝いに帰ってくるようになりました。



課題

自治会の全員で取り組むことができる事業として「灯りづくり」という楽しみのある要素から始めましたが、事業を継続していく上でマンネリ化しないようにすること。

また、自治会事業の企画・立案は、役員中心となっているので、役員の負担軽減、若い世代への後継のために実行委員会の組織づくりが必要となっています。

予算の確保も必要です。



夢・抱負・今後の推進方向

宿場町として栄えた頃の地域の活気を取り戻すことが一番の目標です。住民同士のコミュニケーションが活発で、明るく住みよい町にしていきたい。

団体名：波賀野新田自治会

氏名：自治会長 西井 弘治

事務所の所在地：篠山市波賀野新田132

電話：079-595-1157 FAX：079-595-1157

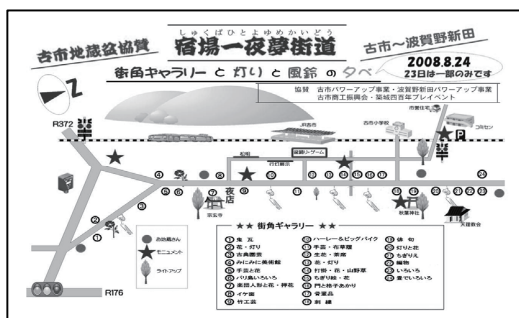
E-mail：h-nishii@maia.eonet.ne.jp

⑨活動の展開

コミュニケーションの回復から始める

地域には、解決しなければならないたくさんの課題があります。しかし、いきなり住民みんなを集めて課題解決に向けた検討を行っても意見は出ないことが多く、何か行動に移っても「やらされている感」が残り、次第に参加者が減り、なかなか前には進みません。コミュニケーションの回復から取り組むことがポイントです。

当会では、だれでも参加できる「灯りの作品づくり」から始めたので、住民同士のコミュニケーションがとりやすく、自治会活動に楽しさを感じてもらうことができました。以前に比べて参加者も増え、意見も活発に出るようになりました。



⑧組織運営

自分たちのレベルを把握しよう

目標は大きく持つべきですが、一生懸命やっても無理な計画は、会員にとっても役員にもしんどいだけです。自分たちにできる範囲を見極め、あせらず根気よく活動を行うことが組織の運営には必要だと思っています。



⑨活動の展開

参加しやすい環境や条件を整える

灯りは、竹筒にボール盤で穴を開けてつくります。ボール盤は自治会で購入し、コミュニティセンターに常設し、いつでもだれでも使いたいときに使えるようにしています。個人への貸し出しもしています。

また、地区内には5年程前にできた市営住宅があります。市営住宅周辺のロータリーを手作りの灯りで飾ってくれるように働きかけました。これを契機に交流ができるようになり、自治会の運動会への参加も増えました。



ひとことメッセージ

地域の課題は、誰もが心の奥に「なんとかしなければ」と思っているけど「どうすればいいのかわからない」だけだと思います。

きっかけは何だっていいのです。祭りなどの地域イベントや勉強会でもみんなが集まる場を大切に、コミュニケーションがうまく広がれば自然と問題提起や活動にも繋がっていくものだと思います。

## 空家の古民家（三棟）を改修した農家民泊の開業 —丹波篠山の宿・集落丸山—

### 活動の概要

集落丸山は、篠山城址の北側、多紀連山の麓に位置します。市役所から車で7分の距離ながら、現在総家屋数は12軒、うち7軒が空家。細い谷筋に農地を傷つけないよう茅葺農家11軒が分布する佇まいは秀逸です。傾斜を活かし石積みと一体となった戌亥蔵と築地塀に囲まれ、茅葺古民家が今も現役として生きています。谷合にせせらぎの音と野鳥の音がこだまし、夕刻、大きな屋並みをシルエットに畦畔木の田園に煙立つ風景は、日本のふるさと、母なる風景を想起させます。現在5世帯19人が住みます。

#### ■活性化の取り組み

「集落は家族である」の理念の下に使われなくなった個人資産は、地域の共有資産であり、他地域に住む財産相続者に代わる地域の協働管理体制を構築し、生きがいの持てる自律した地域経営の創造をめざし、地域協働でエリアマネジメントする活性化モデル体制の構築をめざす。

#### ■農家民泊としての事業化

先ず空家となった古民家を農家民泊施設として改修し、集落NPOの運営管理を通して農家民泊施設を開業。使われなくなった空家を10年間集落NPOに無償提供していただき、集落NPOが経営するもので、その企画経営を協働する専門化集団として一般社団法人ノオトと連携し、'01年9月に有限責任事業組合を立ち上げ、10月から農家民泊の営業を開始。同時に市民農園の事業認可もとり同時経営を図る。

### 成果

- 空家3棟を改築し農家民泊施設を開業、市民農園の事業認可も取得
- 地域をマネジメントする組織として不動産を運営管理する集落NPOを設立し、専門化集団である一般社団法人ノオトと有限責任事業組合(LLP)を立ち上げ始動した
- 民泊事業検討を通して、様々な著名人と縁がいき、緩やかな支援体制を構築
- 農家民泊の検討を通して、元住民が、空家に帰ってきて住むことを決断
- 全世帯主と空家所有者が理事となる集落NPOの設立
- それに伴い「集落は家族である」丸山コミュニティの結束が一層強まったこと

### 課題

茅葺の古民家を活かした丸山の生活スタイル（暮らしの価値）の提案が、多くの人に受け入れられ、新たに農家民泊としての価値を共有する都市住民や出身者等の連携コミュニティの構築を図ること

### 今後の推進方向

農家民泊と市民農園をLLPとして経営することで、持続的な地域マネジメント体制を構築したい。丸山の暮らしを前面に出し、日本人の原点を見つめる「丹波篠山の宿」として地域経営に全力を傾けていく。先ずは丸山の生活スタイルを情報発信。

団体名： NPO集落丸山

氏名：佐古田直實 (NPO集落丸山事務局：佐古田純子・兵庫丹波の森協会 横山宜致)

事務所の所在地：〒669-2361 兵庫県篠山市丸山30

電話： 079-552-5770 (兵庫丹波の森協会 079-506-3530) FAX： 079-552-5770

E-mail： yado@maruyama-v.jp ホームページ： <http://maruyama-v.jp>



位置図



丸山集落の全景



景観的な魅力がいっぱい



黒岡川の水源を形成

## ノウハウ・コツ

### ⑨活動の展開

### 空家活用の持続的な組織体制（新たな公）の確立

空家や未耕作地は地域住民が最も信頼している地域で運営管理するのが理想。地域の主体的組織が責任を持つことで、「地域に迷惑かける」といった後ろめたさが軽減できます。ただし地域人材は、空家が多数発生している準限界集落地域では、乏しいのが現実。そこで各分野の専門家と連携し取り組める体制を築き確立することが重要となります。今回の有限責任事業組合(LLP)は、そうした発想から生まれました。空家では、日常管理し運営する地元組織は欠かせません。加えてまちづくりや建築家等の専門家と農家民泊等の経営や助成金等の法的手続きを進める金融や不動産の専門家が必要です。丸山では、LLP という体制で取組むこととしました。ここで重要なのは、集落景観や空家の価値を共有している人たちであること。価値を共有していればこそ、新しい取組みにも積極的で、途中の困難さも克服できました。

### ⑥ネットワークづくり

### その気にさせる地域住民の啓発

集落の価値を共有するために地域住民によるワークショップを1年間に7回開催。外からの視点として行政や大学生も参加します。併行して啓発と住民のスキルアップを図るため、テーマ別に著名な講師をまねいて、「学習サロン」を5回、来訪者を迎える心構えとして「おもてなし講座」を2回行います。地域住民だけでは、価値の共有に限界があります。外からの視点をどう入れるか、地元の資源を掘り起こすワークショップにも意見としてどう反映するかがポイント。外の専門的かつ最新の情報意見を反映し意識付けを行うことで、地域住民の取り組み決意を促し、心をひとつにしていけることができました。



修復した空家の古民家。古民家の良さを生かし修復し、本年10月空家3棟が農家民泊施設としてオープンした。

## ひとことメッセージ

○集落丸山は、集まって暮らすカタチのリノベーション。大切な人と会話し豊かな自然との対話の中で、地場の美味しいものを食す。贅沢とも思える現在の暮らしを再考し、新しい地域再生を目指しています。

○都会の喧騒さを忘れたらばどうぞ、集落丸山にお越しください。